

2019年度 休眠預金活用事業

# 「地域の力をつないだ複合型再犯防止事業」 事後評価報告書

【実行団体】 更生保護法人 清心寮



舞い上がれ  
社会を変える  
みんなの力  
休眠預金活用事業

人はみな、  
生かされて  
生きてゆく。  
更生保護ネットワーク



【資金分配団体】 更生保護法人 日本更生保護協会

資金分配団体事業名 | 安全・安心な地域社会づくり支援事業  
事業の種類 | 草の根活動支援事業

## 1. 事業概要 ..... p.2

実行団体概要 / 助成事業概要  
助成事業ロジックモデル

## 2. 事後評価実施概要 ..... p.3

- (1) 実施概要
- (2) 実施体制

## 3. 事業の実績 ..... p.7

- 3-1 インプット
- 3-2 活動詳細と支援事例
- 3-3 活動とアウトプットの実績
- 3-4 外部との連携の実績

## 4. アウトカムの分析 ..... p.22

- 4-1 アウトカムの達成度
  - (1) アウトカムの計画と実績
  - (2) アウトカムの達成度についての評価
- 4-2 事業の効率性
- 4-3 成功要因・課題

## 5. 考察 ..... p.36

事業全体を振り返っての考察  
(その他深掘り検証項目 / 波及効果 / 提言 / 知見・教訓)

## 6. 結論 ..... p.39

- 6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
- 6-2 事業実施の妥当性

## 7. 資料 ..... p.40

# 1. 事業概要

## 実行団体

### 更生保護法人 清心寮

## 団体概要

出所者や保護観察中の人などのうち、帰る先がなく自立更生することが困難な人たちに対して、一定期間、宿泊場所や食事を提供しつつ、就労確保や住居確保を促すなど円滑な社会生活移行を支援している。生活指導、職業指導のほか、SST、料理教室、法律相談、ボランティアによる教養講座や日帰り旅行等レクリエーションの機会も作るなど、社会生活向上に資する支援を行っている。



## 解決を目指す 社会課題

出所者や非行少年の課題は様々で、就労、福祉、医療、住居等多岐にわたる支援が必要なため、社会復帰を支えるための幅広い領域の団体による、実効性の高い支援地域ネットワークが必要である。だが、現状は保護司等既存の更生保護団体の努力に依拠している。就労に関しては、保護観察対象者の就労支援は国によって委託事業として進められているところ、その期限は限られており、途中で打ち切られることも多い。薬物依存症者の回復を支援するための拠点は非常に限られており、仕事等をしながら通所する施設がない。

## 助成事業

### 事業名

### 地域の力をつないだ複合型再犯防止事業

### 事業概要

県内の関係機関との情報共有の場づくりなどを通し、それぞれの機関・団体が出所者等支援に不安なく関われるような支援地域ネットワーク構築を目指す。就労の定着支援は埼玉県就労支援事業者機構と拠点づくり連携し、薬物依存症者に関しては、専門家の協力を得ながらグループミーティングなど回復支援を行う。そして、埼玉県BBS連盟と連携し、非行少年等が地域で孤立することのないようにボランティア活動を通じて彼らが地域活動の担い手となっていくよう支援する。

実施期間 | 3年（2020.3～2023.3）

対象地域 | 埼玉県

支援対象 | 犯罪をした人、  
少年院を仮退院してきた少年等

### 事業終了時の 展望 (当初案)

2023年度以降の事業継続に資することが重要であると考えているので、①埼玉における支援地域ネットワークについては、永続的なつながりを目指しており、終了後はネットワークの維持のみならず拡大発展を目指していく。②民間更生保護事業の要として連絡調整を行う日本更生保護協会の事業評価や助言を受けつつ、全国での事業展開につなげる可能性、国・地方公共団体の施策に反映する可能性等について連携し検討していく。③個別支援については、2023年度以降は、清心寮事業を再編整理し、自己資金で実施できるようにする。

中期  
アウトカム

埼玉県内において、罪を犯した人や非行少年が、  
自分たちの抱える複雑で多様な課題を解決するために必要な支援を、  
多様な機関・団体・個人から得られる状態になることで、再び犯罪に走ることなく、  
社会の一員としてこの地域に居場所を作れるようになり、犯罪や非行のない地域社会になる。

短期  
アウトカム

01  
多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる（清心寮に入所した人（当事者）がこのような体制による支援を受けられるようになる）

02  
罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。

03  
（薬物乱用・依存歴のある）  
罪を犯した人が、断薬期間を維持し、気軽に悩みや相談できる場所を確保して居場所を見出すようになる。

04  
非行少年等が、自分の住む地域の多様な住民とのつながり、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。

アウトプット

0101  
社会復帰支援ネットワーク協議会に県内の多様な機関・団体が参画し、定期的な情報共有・意見交換と顔の見える関係ができる。

0201  
就労開始後に就労支援フォローアップを受けて、就労支援専門員とつながる状態になる。

0301  
薬物回復支援を継続的に受けられる状態になる。

0401  
地域のボランティア活動に参加し、支援ボランティアとつながる状態になる。

活動

■多様な機関が参画するネットワーク協議会を定期開催する ■県下の支援拠点にリモート環境を整備し情報交換を行う ■連携団体が支援に協力し良い関係が維持される ■連携団体を増やすための広報活動を行う ■職員が連携のコーディネートを担う仕組みを作る

■就職後の対象者と雇用主に対して定着支援を行う ■対象者の抱える課題に応じて関係機関につなぐ等の支援を行う

■退寮者のうち対象者を選定し開催通知を送付する ■グループミーティングを定期開催する

■ボランティア活動の具体的な内容を企画立案し参加者を募る ■ボランティア活動を隔月開催する

## 2. 事後評価 実施概要

### (1) 実施概要

#### ① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定したか

社会復帰支援ネットワーク協議会の参加団体が具体的な支援を提供し続け、さらに幅広い領域の団体が再犯防止事業に賛同し実行性のある幅広いネットワークを構築する。

#### ② どんな調査で測定したのか

	<b>01</b>	多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる。 (清心寮に入所した人(当事者)がこのような体制による支援を受けられるようになる)
	<b>指標</b>	①具体的な支援を提供している団体数とその内容 ②当事者が、社会復帰支援地域ネットワーク参加機関を含む地域の諸機関の適切な支援につながっている
短期 アウトカム 01の評価	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期	【 定量調査 】 ① 事業記録 参照 2020年～2022年12月
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 ② 清心寮の退所後支援・他機関へのつなぎについての本人向けアンケート（主な項目は①支援を受ける理由／②清心寮スタッフと面会する気持ち／③支援による生活課題の解決状況／④紹介された新たな支援者／⑤紹介を受けたかった新たな支援者／⑥社会生活上頼れる人 について） 2022年11月～2022年12月 清心寮退所後も引き続き清心寮からの支援を受けた者24人を対象、うち14人から回答を得た（回収率58%） 単純集計
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 ② 清心寮からの支援連携についての関係機関向けアンケート調査（主な項目は①連携に際して感じたこと／②連携に際して清心寮が留意すべきこと／③連携による不安の軽減の有無／④清心寮との連携の評価等について） 2022年11月～2022年12月 清心寮退所者の支援に際して、連携した機関8団体を対象、うち6団体から回答を得た（回収率75%） 単純集計
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 ② ネットワーク協議会についてのアンケート調査（主な項目は①協議会参加の理由／②協議会に期待すること／③協議会に対する評価／④希望する連携方法について） 2022年11月～2022年12月 埼玉社会復帰支援ネットワーク協議会参加機関団体23団体（清心寮除く）を対象、うち13団体から回答を得た（回収率57%） 単純集計

## ② どんな調査で測定したのか

	<b>02</b>	罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。
	<b>指標</b>	① 6か月以上継続して稼働継続している人数（割合） ② 就労を継続している人の成り行き（資格取得、職場での昇給昇格、本人の満足度等）（アンケート・インタビュー）
短期 アウトカム 02の評価	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期	<b>【 定量調査 】</b> ① 支援記録 集計 2020年4月～2022年12月
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定量調査 】</b> ② 就労支援についての本人向けアンケート調査（主な項目は Q3.「働き続けて良かったこと得られたことは何ですか」） 2022年11月～2022年12月 職場定着支援を受ける就労支援対象者34人のうち、調査時点で退職していない者13人にアンケートを送付し、7人が回答。（回収率54%） 単純集計
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	<b>【 定性調査 】</b> ② 職場定着支援を受ける就労支援対象者を雇用する事業主へのヒアリング 2022年11月～2022年12月 職場定着支援を受ける就労支援対象者を雇用する事業主のうち、話を聞いた数名 ヒアリングで聞き取った内容を要約して記述
	<b>03</b>	（薬物乱用・依存歴のある）罪を犯した人が、断薬期間を維持し、気軽に悩みや相談できる場所を確保して居場所を見出すようになる。
短期 アウトカム 03の評価	<b>指標</b>	① 回復支援に複数回参加している人の人数 ② 薬物回復支援実施日以外に相談してきた人の数 ③ 薬物回復支援の協力者・協力団体の拡充
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期	<b>【 定量調査 】</b> ①,②,③ 支援記録 集計／事業記録 参照 2020年4月～2022年12月
短期 アウトカム 04の評価	<b>04</b>	非行少年等が、自分の住む地域の多様な住民とのつながり、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。  ※開催1回で参加者が1名のみであり、以後、参加及び開催のめどが立たないため活動を打ち切りとした。そのため、調査は行わない。 ただし、活動困難になった分析はしている。

### ③ 調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

調査結果を白書等の統計資料などを参照し、再犯率、刑務所再入率、就労継続状況、住所不定の状況などの比較を行い、効果の判断を行った。

## (2) 実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	アンケート調査の実施	小尾 康男	更生保護法人清心寮 補導主任
内部	アンケート調査結果の分析・全体総括	西村 穰	更生保護法人清心寮 施設長
内部	薬物依存者の聞き取り・報告書作成	萑塚 明	更生保護法人清心寮 補導員 (※2022年11月に退職)
内部	アンケート調査・分析 (就労支援部分)	今井 秀也	埼玉県就労支援事業者機構事務局長

## 3. 事業の実績

### 3-1 インプット（主要なものを記載）

項目		内容・金額	
(1) 人材 <small>(主に活動していたメンバーの人数や役割等)</small>	内部：合計6人（担当者1人、ネットワーク協議会1人、就労支援2人、BBS2人） 外部：合計4人（自助グループ2人、専門家2人）		
(2) 資機材（主要なもの）	リモート会議用パソコン		
(3) 経費実績 助成金の合計			
① 契約当初の計画金額	合計	9,948,000 円	事業費：9,828,000円（内訳 直接事業費：9,424,800円 / 管理的経費：403,200円） 評価関連経費：120,000円 コロナ対応緊急支援追加額：0円（内訳 直接事業費：0円 / 管理的経費：0円）
② 実際に投入した金額と種類	合計	12,243,000 円	事業費：9,828,000円（内訳 直接事業費：9,424,800円 / 管理的経費：403,200円） 評価関連経費：120,000円 コロナ対応緊急支援追加額：2,295,000円（内訳 直接事業費：2,295,000円 / 管理的経費：0円）
(4) 自己資金			
① 契約当初の自己資金の計画金額	合計	2,457,000 円	
② 実際に投入した自己資金の金額と種類	合計	2,457,000 円	
③ 資金調達で工夫した点	清心寮が行う、宿泊保護などの事業と連携して取り組むことにより、事業面及び資金面で効率的な内容となるよう工夫した。		

### ネットワーク協議会 |

#### 地域の多機関と、支援に協力してもらう関係を作る

##### 1 社会復帰支援ネットワーク協議会による支援参加の推進

ネットワーク協議会は、刑務所釈放者等の円滑な社会生活移行を目指して平成25年に立ち上げた協議組織である。清心寮が主幹事となっており、清心寮入所者をはじめ埼玉県内で生活する人を想定している。取組み内容は、①協議会を通じて福祉医療などの地域支援に関連する機関団体の参加を呼び掛ける、②社会生活移行を促進する上で各ネットワーク構成員ができることを確認し共有する、③福祉医療などの機関団体が対象者の支援について抱く不安や疑問を明確にし解決方法などについて共有する、などである。参加団体は、刑事司法、更生保護、福祉、医療、就労支援、住居支援などの24団体が参画している。休眠預金活用事業においては、協議会開催の頻度を高め、顔の見える関係を構築することにより、社会生活の自立に取り組む者に対して複数の団体が一体的かつスムーズな支援を実施できるような体制ができるように取り組むこととした。

ネットワーク協議会は上記のとおり顔の見える関係づくりを目的としており、対面式の会議方式であるが、コロナ禍の中で、開催自粛をせざるを得ない状況となった。そこで、資金分配団体の助言を得て、清心寮のリモート環境を整備し、ようやく2022年6月13日にリモート会議として開催し、さいたま保護観察所及び地域定着支援センターと共同で「入口支援（被疑者の社会生活基盤の確保を支援する事業）」及び「訪問支援モデル事業（清心寮退所者等に対しアウトリーチにて生活上の課題解決を支援する事業）」について情報共有を図った。さらに2023年1月19日に、リモートにより「更生保護地域連携拠点事業（県内各地に釈放者等の社会生活の見守りをおこなう地域ネットワークを構築する事業）」についてさいたま保護観察所・埼玉県就労支援事業者機構・埼玉県更生保護観察協会と共同で情報共有を図った。

##### 2 新たなネットワーク形成の仕組みづくり

上記1のとおり、協議会開催が当初の目標通りに開催できていないことを踏まえ、ネットワーク協議会を基盤としつつも、新たなネットワーク形成の仕組みづくりを検討し、以下の取組みを行った。

###### （1）県内遠隔地の対象者に対するリモートによる支援

ネットワーク構成員のほとんどがさいたま市に所在しており、遠方の対象者に支援が及ばないおそれがある。そこで、①対象者貸出し用のリモート端末を数台確保する、②立ち直りの支援の拠点として期待される地区保護司会（更生保護サポートセンター）7か所にリモート端末を配付することにより、さいたま市に所在する専門家の支援を県内の受益者がリモートで受けられるような体制を整えた。

例えば、後述する薬物ミーティングについては、遠隔地の対象者にリモート端末を貸し出し、薬物離脱専門家、ミーティング進行役の清心寮、支援対象者の3者がお互いに離れた場所にいながらミーティングに参加することができる。個別の支援においては一堂に会することが困難な場合が多く、リモートによる効率的なネットワーク形成が期待される場所である。

なお、地区保護司会への配付に当たっては、埼玉県保護司会連合会から手厚いサポートをいただいた。特に、ネット環境が未整備の7地区保護司会にリモート端末の設定作業、モバイルWiFiを契約し配布していただくなど手続き面及び金銭面でご支援をいただいている。

###### （2）単独で社会生活自立に取り組む対象者への立ち直り支援ネットワークの形成

上記1のネットワーク協議会は、当初は清心寮入所者など釈放直後の対象者の早期の社会生活移行を促すために、更生保護施設等の送り手、福祉施設・協力雇用主などの受入れ側、地域生活定着支援センター・就労支援事業者機構などの媒介者の3者のネットワーク形成が目的であった。

2016年の再犯防止推進法施行後、社会生活移行後の生活自立への見守りが重視されるようになった。そこで地域に根付いた日常生活を見守り支援するためのネットワークの形成を図ることとした。おりしも、2021年10月から更生保護施設退所後の生活自立を支援するアウトリーチによる「訪問支援事業」を国からの受託事業としてスタートした。訪問により退所者の生活上の課題を把握し、課題解決に関わる住居、就労、医療、福祉などの関係者とケースに基づく密接なネットワークを形成することとした。

## 2 新たなネットワーク形成の仕組みづくり（つづき）

こちらのネットワークでは、本人の生活上の課題解決がテーマとなり、①課題解決を支援する機関団体に円滑に取り次ぐ、②雇用主、大家、病院、福祉などと本人との関係を良好なものにすることについてを清心寮が媒介者、調整者になることが連携の眼目となった。このように、社会生活移行のネットワークとはことなる、あらたな取り組みスタイルとなった。

例えば、上記①については、病院への同行支援により本人の主訴を正確に医師に伝え、治療方針をわかりやすく本人に伝えるなど重要な媒介役となっている。また、②については、賃貸アパートの居住について、○賃料滞納の防止、○室内の整理整頓の指導、○アパート住人とトラブル回避などについて大家との良好な関係の維持の調整役となっている。このように、清心寮が媒介役・調整役となることで関係者との良好な関係が維持されるとともに、犯罪や非行をした人と関わる機関団体に安心感を与え、積極的な協力を得ることができるようになっている。

以上、ネットワーク形成は何を取り組みの目標にするかで仕組みが異なってくる。埼玉県域をカバーするネットワーク協議会を基盤としつつ、ケースに関わる各地に根付くネットワークを作っていきたいと考えている。

## 3 連携のコーディネーターとしての職員体制の強化

上記（2）のとおり、清心寮が個別ケースの媒介役・調整役となると、各職員がコーディネーターとしての資質を身に着けることが俄然必要となる。そこで、2021年9月に専門家（日本社会事業大学・新藤氏）を招きロジックモデルの整理を行い、連携すべき機関団体を洗い出しリストを作成し必要な連携を継続すべく働きかけを行った。また、清心寮及び就労支援事業者機構の役員と職員を対象に「ケースマネジメント」「ストレングスモデル」に関する研修を実施したことにより、処遇計画書フォーマットを改善してストレングスの視点を取り入れ寮生への働きかけのレベルアップを図った。また、ケースマネジメントを学んだことにより、職員が他機関との連携を効果的にコーディネートする能力を身に着けることができた。

## 4 ネットワーク参加を促すための周知広報

連携団体を増やすため、①ホームページを作成し、具体的な活動内容を紹介することにより、地域社会の参画意欲の喚起を図った。②清心寮作成の絵手紙カレンダー裏面にネットワーク協議会参加を促す周知文を作成配布した。



## 就労定着フォローアップ支援 |

### 対象者と雇用主を後方支援し、就労継続を支える

刑務所出所者、非行少年等の中には、就職しても就労定着ができないため、立ち直りのための生活基盤が脆弱な者が少なくない。そのため、国を挙げて就労先の確保のための支援を実施してきた。しかし、定着率は必ずしも良好でなく、職場定着支援も行われてきたが、支援期間が終了後に離職する者も少なくない。そこで、就労支援により就職した者に就労継続支援の実施（職場定着支援）を行い、彼らが、就労継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場に立ったりして、自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になることを促進することとした。

この支援には、就労支援に専門的にかかわっている埼玉県就労支援事業者機構に関わっていただくことにした。

2022年3月には、新型コロナウイルス感染拡大のために対象者の自宅訪問を自粛せざるを得ない状況の中、2021年度の新型コロナウイルス対応追加助成でリモート端末を購入し、埼玉県保護司会連合会の協力によって埼玉県内主要地区のサポセンにリモート端末を配布できた。それにより就労継続支援の対象者に対してリモート面接によるフォローアップを実施して就労継続を図ることができた。また、2022年度に入ってからでは就労継続支援対象者が勤務している協力雇用主のもとへ車を使って訪問しフォローアップを実施している。

就労継続の支援は、就労に対する労使双方の不安を軽減するために役立っている。6か月以上就労する割合は38%であり目標の70%に遠く及ばない。しかしながら、対象者のほとんどはすぐに他の企業に転職し、自立に努めており、複数企業をまたいで、就労継続は維持されている。刑務所出所者等の就労は、出所直後は、所持金が少ないため、まずは日銭を稼げる日給制の現場仕事が多いが、生活に余裕が出てくると、本来自身がやってみたい職業に移動することが多い。彼らは転職しながらキャリアアップしたり、賃金の高い職場に変わったりと、上昇志向の移動が多くなっている。支援そのものに対する満足度は高く、就労先に関する本人の意思を尊重しながら相談支援を行うことが適切であると思料する。

## 就労定着フォローアップ支援を受けた人の事例

### 認められること・やりがいのあることが、意欲につながる

#### 事例1

18才男性 帰宅先の実親から離れ、寮付きの建設業（建物塗装）へ就労した。手に職をつけたいと支援対象者の頑張りもあったが、社長夫妻が文字通り家族同然に面倒を見ていて定着した。実父とは離れたことで落ち着いた関係に戻れている。就労継続中、正社員8か月超。

#### 事例2

41才男性 サービス業のみ経験あり。支援対象者の希望で建設業（内装リフォーム）へ就労した。興味のあることだったので仕事内容の覚えも早く、持ち前の人当たりの良さもあり会社内外で信用を得ている。更生保護施設からアパートへの転居ができた。就労継続中、正社員6か月超。

## 薬物回復支援 | 専門家とつないだ定例ミーティング

薬物依存の対象者については、保護観察など公的機関の関与が終了すると、気軽に支援を受ける団体等が見当たらないことが多い。自力では依存回復が困難なため、彼らが支援を受けやすい場を提供することが課題となっていた。そこで、関係者とネットワークを形成して、月1回薬物回復ミーティングを開催した。

回復ミーティングの開催頻度は毎月第三木曜日に月1回開催、助言者として埼玉ダルクの辻本施設長、カウンセラーの堀口氏に隔月で来ていただいている。コロナ禍により集団行事の自粛要請があり、2020年度の実施は大幅に遅れた。また、清心寮入所者にコロナ感染者が発生すると、ミーティングルームが隔離室となるため中止を余儀なくされた（リモートで実施する場合も、リモート設備がミーティングルームにあるため実施が困難になった。）。開催実績は、2020年度は1回（参加者3名）、2021年度は9回（参加者は、2回が2名、7回が1名）、2022年度（4月～翌1月）は、4回（参加者は、各回とも1名）となった。薬物支援の登録者は現在15名。

薬物支援への参加働きかけについては、31人に働きかけ、15名が承諾し登録となった。

薬物回復支援の対象者は、二度と薬物に手を出さないとの意識を有しているが、固い決意となって具体的な薬物離脱の取組みに結びつくことは少ない。支援（ミーティング）を受けなくとも、十分に薬物離脱はできると楽観視しがちである。このため、万難を排してプログラムに積極的に参加する者は必ずしも多くない。日勤後に参加できるよう夜間のミーティングに設定しているが、プライベートな用事があるとそちらを優先し、しごとで疲れたからといって出席を渋りがちである。事前の動機づけと継続的な強い働き掛けが必須である。本人たちの感想では、保護観察所が実施する薬物プログラムとは異なった、対象者同士が本音を語り合えるざっくばらんなミーティングを望んでいるようだ。彼らが継続的に参加できるような魅力的なミーティングを設定するためには、清心寮補導員が片手間に働きかけるのでは実現できないと反省している。

その中でも、数例は、生活上で薬物再使用のリスクを高める強いストレスが生じたときに、清心寮に連絡し、ストレス低減につながり、断薬が継続できている。ミーティングの効果はあると考えており、運営の仕方を検討していきたい。

## 地域ボランティア活動 | 埼玉県BBS連盟との連携

BBS（Big Brother and Sisters Movement）は、少年少女たちに、同世代の姉や兄のような存在として一緒に悩み、一緒に学び、一緒に楽しむボランティア活動であり、特に①非行少年の「ともだち」として触れ合うことでその自立を支援する、②非行のない社会環境づくりに取り組むなど、非行問題に熱心に取り組んでいる。

近年、非行のある少年が家族や社会から孤立し健全な自立が阻害されるケースが目立っている。そこで、本事業の一つとして、埼玉県BBS連盟と連携し、非行少年がBBS会員と一緒に社会貢献活動に取り組むことにより、社会との交流を深めさせ、健全な自立を促すこととした。活動の内容としては、野外活動で公園等の清掃活動を行うことを予定していた。しかしながら、コロナ禍の中、集団活動の自粛が求められ、支援対象者の参加呼びかけ及び支援スタッフの参加ともに困難となり、BBSには苦勞を掛けてしまった。結局、2021年7月に秋ヶ瀬公園子ども広場の外来植物の除去を行ったが参加者1名にとどまった。

清心寮として、代替措置を提案することができず、開催のめどが立たなくなった。県内各地に所在する少年を、地域との交流が希薄な川岸の清掃活動に参加させることにも共感を得られず、活動の意義を少年に動機づけることが難しかった。

### 3-3 活動とアウトプットの実績

#### ロジックモデル

#### 【地域の力をつないだ複合型再犯防止事業】

#### 中期 アウトカム

埼玉県内において、罪を犯した人や非行少年が、自分たちの抱える複雑で多様な課題を解決するために必要な支援を、多様な機関・団体・個人から得られる状態になることで、再び犯罪に走ることなく、社会の一員としてこの地域に居場所を作れるようになり、犯罪や非行のない地域社会になる。

#### 短期 アウトカム

01

多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる（清心寮に入所した人（当事者）がこのような体制による支援を受けられるようになる）

02

罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。

03

（薬物乱用・依存歴のある）  
罪を犯した人が、断薬期間を維持し、気軽に悩みや相談できる場所を確保して居場所を見出すようになる。

04

非行少年等が、自分の住む地域の多様な住民とのつながり、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。

#### アウトプット

0101（4桁アウトカムあり）

社会復帰支援ネットワーク協議会に県内の多様な機関・団体が参画し、定期的な情報共有・意見交換と顔の見える関係ができる。

※コロナ禍の活動制約のため中間評価時に事業を見直し、当初アウトプットに加え、短期アウトカムの下位アウトカム(4桁アウトカム)を追加

0201

就労開始後に就労支援フォローアップを受けて、就労支援専門員とつながる状態になる。

0301

薬物回復支援を継続的に受けられる状態になる。

0401

地域のボランティア活動に参加し、支援ボランティアとつながる状態になる。

#### 活動

■多様な機関が参画するネットワーク協議会を定期開催する ■県下の支援拠点にリモート環境を整備し情報交換を行う ■連携団体が支援に協力し良い関係が維持される ■連携団体を増やすための広報活動を行う ■職員が連携のコーディネートを担う仕組みを作る

■就職後の対象者と雇用主に対して定着支援を行う ■対象者の抱える課題に応じて関係機関につなぐ等の支援を行う

■退寮者のうち対象者を選定し開催通知を発送する ■グループミーティングを定期開催する

■ボランティア活動の具体的内容を企画立案し参加者を募る ■ボランティア活動を隔月開催する

### 3-3 活動とアウトプット（及び4桁アウトカム※）の実績

※4桁アウトカムとは、短期アウトカム01を達成するための下位アウトカム

アウトプット (4桁アウトカム) <b>0101</b> (1/3)	アウトプット   社会復帰支援地域ネットワーク協議会に県内の多様な機関・団体が参画し、定期的な情報共有・意見交換と顔の見える関係ができる。 目標達成時期   2023年1月		
	主な活動（概要）   ■多様な機関が参画するネットワーク協議会を定期開催する ■県下の支援拠点にリモート環境を整備し情報交換を行う ■連携団体が支援に協力し良い関係が維持される ■連携団体を増やすための広報活動を行う ■職員が連携のコーディネートを担う仕組みを作る		
指標	初期値	目標値	実績値
①地域支援ネットワーク協議会開催数	①年間3回程度	①初期値より3回増	2020年度0回（休止） 2021年度0回（休止） 2022年度2回実施 <b>【目標値未達成】</b>  コロナ禍において、集合して行う会議の自粛を求められ開催困難となった。リモート会議に代替する発想や技術的な準備が遅れ、ようやく2022年度に実施が可能となった。 ・2022年6月13日にリモート開催。 「埼玉県地域再犯防止推進事業（入口支援）」「訪問支援モデル事業」について報告された。 ・2023年1月19日リモート開催。 「更生保護地域連携拠点事業」について報告された。
詳細アウトプット(4桁アウトカム)   (0101-01) 連携すべき機関・団体が明らかになる（リストなどに整理されている）			
①連携すべき機関・団体の名称と期待される支援内容が、整理されリスト化されている	①整理されていない	①連携が必要と考える機関・団体と期待される支援内容を整理したリストが存在する	①存在する。 <b>【目標値達成】</b> エコマップによるリストを作成した。ネットワーク協議会構成団体と個別ケースで連携している団体を分けしたうえで、支援内容別にカテゴリー化し、団体間の関係を整理した。
②新たに連携について説明に行った機関・団体数	②0	②当事者支援の中で、新たに連携が必要と判断した機関・団体のすべて(100%)	②100%。 <b>【目標値達成】</b> 訪問支援を通して、当事者支援のパートナーとして永続的な連携が必要と判断した <b>8団体</b> を選定し説明を行い協力を得た。

指標	初期値	目標値	実績値
<b>詳細アウトプット(4桁アウトカム)   (0101-02) 連携すべき機関・団体が罪を犯した人の支援に協力する</b>			
<p>①連携すべき機関・団体から、当事者の力になりたい(何かしらの支援に関わりたい)という想いがうかがえる(関連した発言や行動(例えば具体的な連携協力など)がみられる)</p> <p>②連携できる機関・団体が増えている</p>	<p>①依頼していない</p> <p>②リストとして整理されていない</p>	<p>①刑務所出所者の支援に協力することについて肯定的な発言や行動が見られる。</p> <p>②0101-01①で作成した当初リストと比べて、連携機関・団体が(数や分野が)増加している。</p>	<p>①アンケート調査の結果、好意的かつ肯定的な反応がある。 <b>【目標値達成】</b> 上記0101-01②の8団体については、2021年10月にスタートした訪問支援モデル事業で具体的な支援を行っていただいた。刑務所出所者の支援を行うことは初めてとの話があったため、密に連絡を取り合っている。その他の団体は、上記のとおり、アンケート調査により好意的かつ肯定的な反応を示している。(詳細は巻末資料参照)</p> <p>②当初と比べて37団体を連携先として加えた。<b>【目標値達成】</b> 特に訪問支援モデル事業の対象者が増えることで、対象者の転居先地域の支援団体に依頼することが増えるため、新規の連携先が増えることになる。また、従来から絆のあった団体を支援のための連携先として視点を変えて捉えることでも連携先として再認識することができている。</p>
<b>詳細アウトプット(4桁アウトカム)   (0101-03) 連携機関・団体間(清心寮含む)の役割分担が明確になり、それぞれの機関・団体が刑務所出所者等支援に不安なく関われるようになる。</b>			
<p>①連携すべき機関・団体間における(-01)の指標になっているリストの納得度</p> <p>②連携すべき機関・団体が抱える処遇に対する不安度</p>	<p>①リストとして整理されていない</p> <p>②把握していない</p>	<p>①連携すべき機関・団体が、リストに書かれた支援内容に納得している</p> <p>②連携すべき機関・団体が「支援することに不安はない(あるいは、不安があったとしても大丈夫である)」と話してくれている</p>	<p>①及び②ともに、そのように把握している。<b>【目標値達成】</b> 具体的な支援を実施していただいた8団体に対しては、対象者の同意を得た上で犯行など具体的経歴を隠さずに説明した。その上で納得し、責任をもって支援を行うことを決定している。そもそも、どのサービスでも、刑務所釈放者等をサービスから除外することはできないし、かえって弊害があることを当方が説明し、清心寮が二人三脚でサポートすることを確約している。そのことを十分認識させたうえで、連携による円滑かつ効果的なサービス提供をになえるように仕組んでいる。</p>

アウトプット  
(4桁アウトカム)  
**0101**  
(3/3)

アウトプット | 社会復帰支援地域ネットワーク協議会に県内の多様な機関・団体が参画し、定期的な情報共有・意見交換と顔の見える関係ができる。  
目標達成時期 | 2023年1月

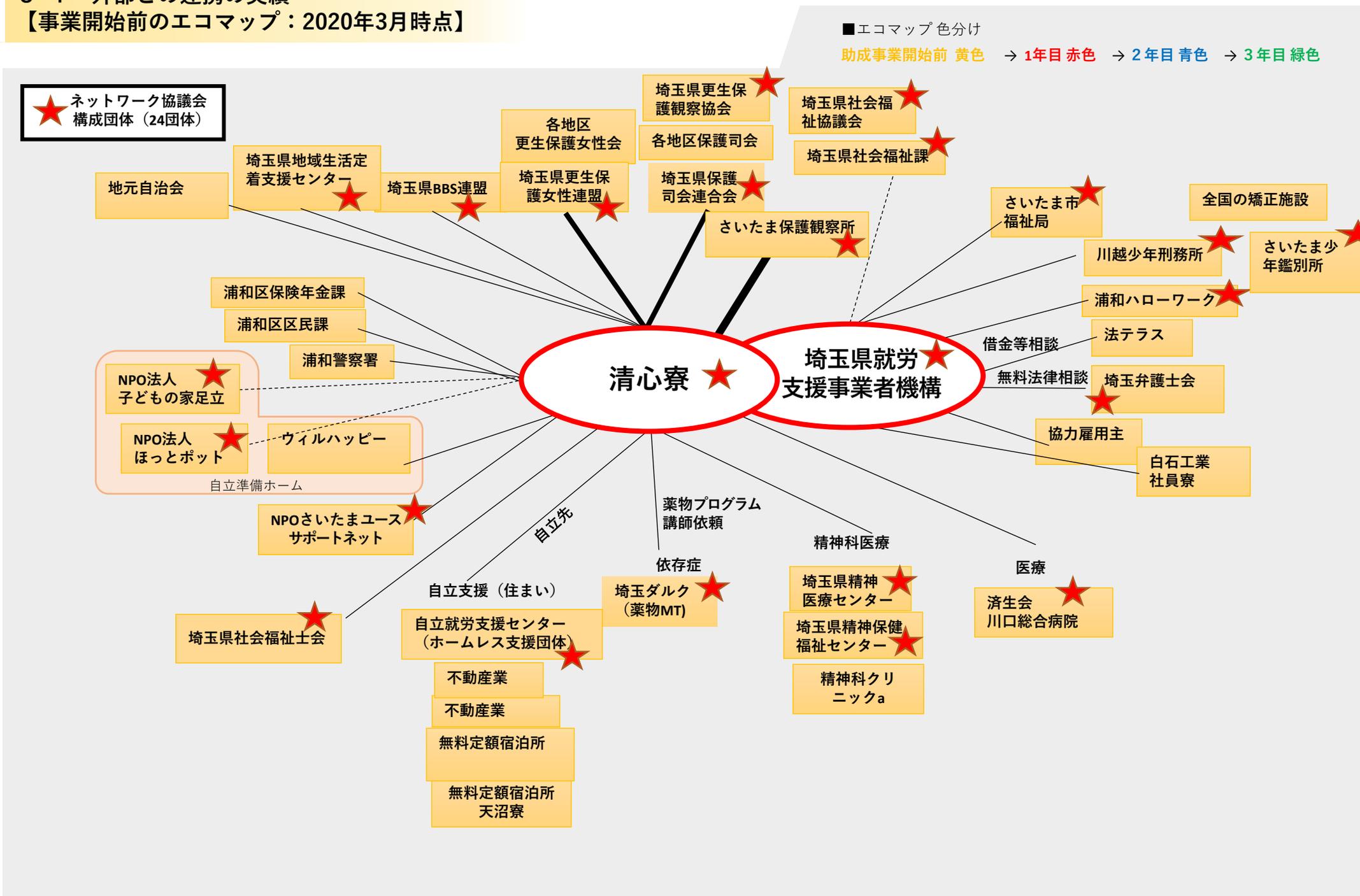
指標	初期値	目標値	実績値
<b>詳細アウトプット(4桁アウトカム)   (0101-04)</b> 連携する機関・団体との良い協力関係が維持される (担当者が代わっても組織間の良い協力関係が維持される)			
①連携先の機関・団体において担当者が代わっても変わらない連携関係がある状況	①担当者が交代するとそれまでと同様の連携ができない可能性がある。	①連携先の機関・団体において、担当者が代わっても変わらない支援を得られるような仕組みがある (担当者の変更により、支援や協力程度に後退がない)	①担当者が変更しても、引継ぎが確実に行われ、その都度清心寮が他機関団体を訪問し説明するとともに、清心寮がイニシアチブをとって連携を支えている。 <b>【目標値達成】</b>
<b>詳細アウトプット(4桁アウトカム)   (0101-05)</b> 清心寮の職員がコーディネートの機能を果たすようになる (その仕組みができる)			
①社会復帰支援計画 (仮称) の作成・活用状況	①存在していない	① (2023年1月時点では) すべての処遇対象者に対して社会復帰支援計画 (箇所) が作成・活用されている	①原則として、清心寮に帰住した方全てを訪問支援の対象者として、清心寮入所時の社会復帰支援計画を作成している。退所時の更生計画書には、将来の夢や目標の記入欄を設け、自立のための取り組みに役立つよう、各担当補導員が具体的に働きかける。 <b>【目標値達成】</b>
<b>詳細アウトプット(4桁アウトカム)   (0101-06)</b> 罪を犯した人本人も必要な支援を受け入れ、自分自身の役割を果たすようになる			
① (職員の方で訪問支援等フォローアップが必要と見立てた方における) 訪問支援等フォローアップ支援の受け入れ率	①訪問支援を開始していないため把握できていない	①100% (必要と見立てた方の全てが支援を受け入れれば最も望ましい)	①50% <b>【目標値未達成】</b> (2021年10月訪問支援開始時から2022年9月1年間の訪問支援実人員41人÷清心寮退所者数82人) 原則、清心寮に帰住した方全てを訪問支援の対象者として個別に説明しているが、①指示に従わないなど訪問支援にそぐわない、②遠方に移転する、③社会生活に問題はなく支援は不要である、などの理由で訪問支援の対象とならない者が存在する。
②社会復帰支援計画 (仮称) に本人の役割が書かれている割合	②社会復帰支援計画書式が存在しない	②100% (全ての支援対象者について、自分自身の役割が書かれていることが望ましい)	②100% <b>【目標値達成】</b> 更生計画書には、将来の夢や目標の記入欄を設け、自立のための取り組みに役立つよう、各担当補導員が具体的に働きかけている。 (様式は巻末資料参照)

アウトプット 0201	アウトプット   就労開始後に就労支援フォローアップを受けて、就労支援専門員とつながる状態になる。 目標達成時期   2023年1月		
	主な活動（概要）   ■就職後の対象者と雇用主に対して定着支援を行う ■対象者の抱える課題に応じて関係機関につなぐ等の支援を行う		
指標	初期値	目標値	実績値
就労支援フォローアップ支援者数	年間100人	年間150人	支援実人数 2020年度（実人数）137人 【目標値未達成】 2021年度（実人員）129人 【目標値未達成】 2022年度（実人員）39人（12月末）【目標値未達成】 近年、矯正施設の就労支援により受刑中に就職内定を得て、釈放される者の割合が増加しており、これらの者に対して、社会内での就労支援がアプローチできず、定着支援に至っていないため、目標を達成しなかった。2022年度は、年度途中でスタッフが交代し、就労支援体制がリセットしたことで、支援者数が大幅に減少した。
アウトプット 0301	アウトプット   薬物回復支援を継続的に受けられる状態になる。 目標達成時期   2023年1月		
	主な活動（概要）   ■退寮者のうち対象者を選定し開催通知を発送する ■グループミーティングを定期開催する		
指標	初期値	目標値	実績値
①薬物回復支援の参加者数	①1回3人 （試行実施分）	①1回あたりの参加者が 10人程度	①1回あたりの平均参加者数は1.3人。1～3名の参加。 不参加の理由は私的用務があるから等。【目標値未達成】 【開催実績】 2020年度 1回（参加者:3名） 2021年度 9回（参加者:2回が2名、7回が1名） 2022年度(4月～翌1月) 4回（参加者:全て1名）
②薬物回復支援に参加を促すための 個別の働き掛けを行った人数	②延べ32人 実人数9人（2020年4 月～8月の間）	②2020年度 実人数10人 2021年度 新規実人数10人 2022年度 新規実人数10人	②2020年度 15名（内10人登録）【目標値達成】 2021年度 8名（内3人登録）【目標値未達成】 2022年度12月末まで 8名（内2名登録）【目標値未達成】

アウトプット 0401	アウトプット   地域のボランティア活動に参加し、支援ボランティアとつながる状態になる。 目標達成時期   2023年1月		
	主な活動（概要）   ■ボランティア活動の具体的内容を企画立案し参加者を募る ■ボランティア活動を隔月開催する		
指標	初期値	目標値	実績値
①地域ボランティア活動実施回数	①毎年度6回	①毎年度6回以上実施する	①2020年：未実施 2021年：7月1回実施（参加者1人） 2022年：未実施 【目標値未達成】 コロナ禍の中で3密につながる集団活動の自粛の要請があり、スタッフ・参加者ともに確保できず、代替措置も考案できなかった。また、県内各地に所在する少年を、地域との交流が希薄な川岸の清掃活動に参加させることにもボランティア活動としての共感を得られず、活動の意義を少年に動機づけることが難しかった。
②地域ボランティア活動参加者数	②1回1人程度	②初期値より2人増	②1名のみ 【目標値未達成】

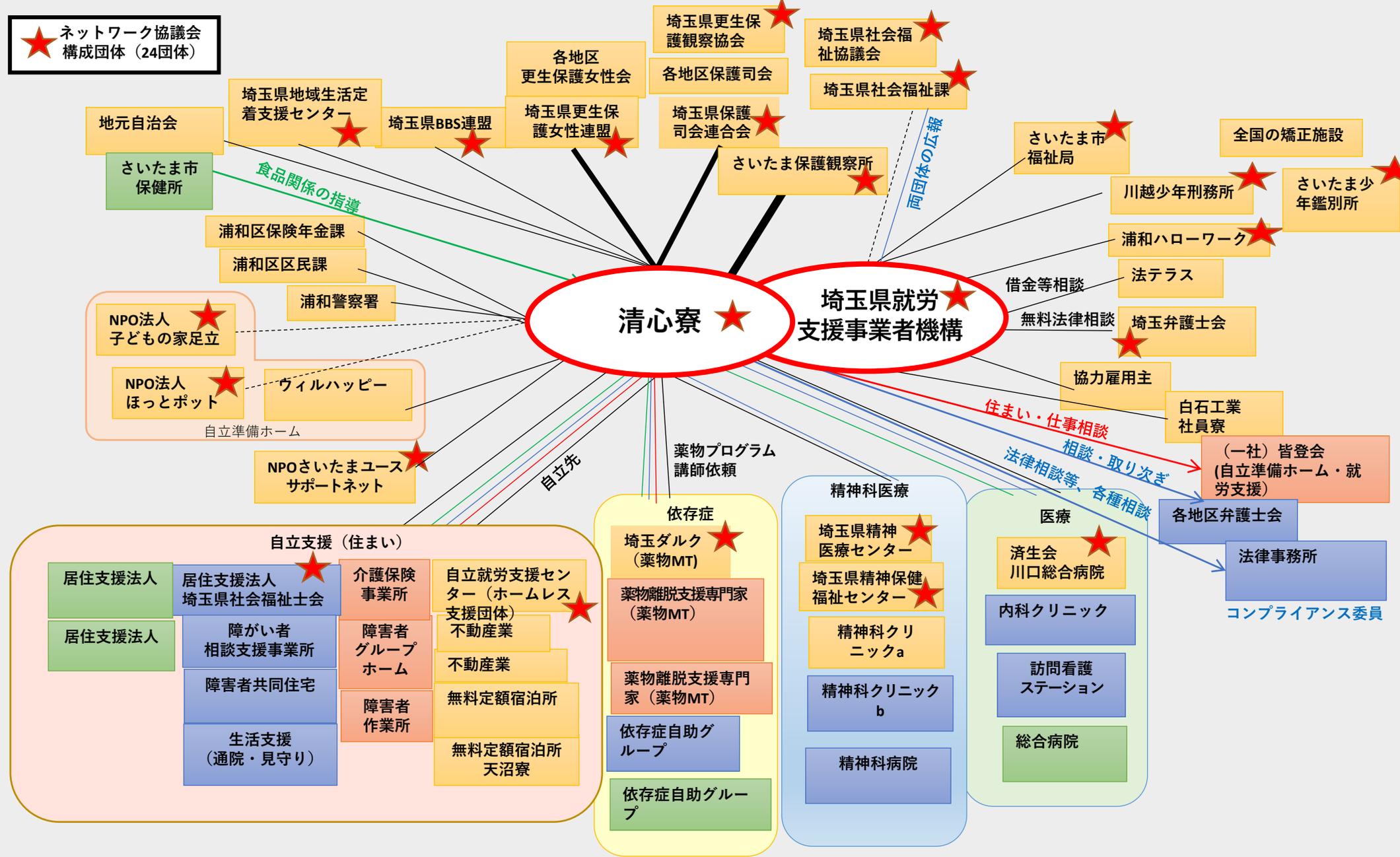
### 3-4 外部との連携の実績

【事業開始前のエコマップ：2020年3月時点】



### 3-4 外部との連携の実績

【事業3年目のエコマップ：2022年10月時点】



## 外部との連携の実績

### ■ 1年目

- これまでの連携機関団体は、更生保護に属する官署やボランティア団体、刑務所出所者等の支援について委託や制度連携の対象になっている機関団体、刑事司法の関係機関、地元の福祉所管の自治体などすでに密接な交流が存在する機関団体であり、これらに呼びかけネットワーク協議会を形成した。
- 1年目は、①ネットワーク協議会の会合を通して、個別支援の提携関係につながるより密接な連携づくりを図る、②本事業の取り組み（就労定着フォローアップ、薬物回復支援、地域ボランティア活動）を実施することで特定分野に新たなネットワークを創出する、の2つの目標を立て積極的なネットワーク形成を図ることとした。
- 新型コロナウイルス感染拡大により活動自粛を余儀なくされたが、
  - ホームページを開設し、清心寮の事業内容を広く地域の住民、機関団体に広報周知し、連携の糸口として機能させた。ホームページ閲覧を通して支援依頼や取次などが増加している。
  - 追加助成によりリモート機器を購入し、オンラインでの面接やミーティング、会議の実施ができる体制を整えた。

### ■ 2年目

- 社会復帰支援ネットワーク協議会は、オンライン開催では実効性に欠けるとの意見があり開催を見合わせた。2021年10月より始まった訪問支援モデル事業を利用して、訪問支援対象者（自助により社会生活自立の取組みを行っている者）の生活課題を解決するために、地域の関係機関団体に支援依頼をすることで、エコマップに出ている多くの関係機関・団体と連携することができた。
- 就労継続支援では、埼玉県保護司会連合会によるサポセンへのリモート端末配布によりオンライン面接を実施し効果をあげた。
- 薬物回復支援では、電話相談に力を入れて対象者とのつながりが途切れることのないように働きかけた。また、薬物ミーティングをリモート開催することでクリニック（ライフサポートクリニックの北條氏）、自助グループ（埼玉ダルクの辻本施設長）、薬物離脱支援専門家（カウンセラーの堀口氏）と協力連携して、参加者は少ないが継続して開催できた。
- 地域のボランティア活動は、2021年7月頃に新型コロナウイルス感染拡大が治まってきた時に、埼玉県BBS連盟と清心寮で連携し秋ヶ瀬公園でボランティア活動を実施した。

(次ページにつづく)

## 外部との連携の実績

### ■ 3年目

- 社会復帰支援ネットワーク協議会は1年目、2年目は開催を自粛したが、新型コロナウイルスの感染拡大は収束の兆しがないため2022年6月13日及び2,023年1月19日にオンライン開催した。
- 就労継続支援では、埼玉県各地の協力雇用主に対して、車を使って訪問しフォローアップを実施した。
- 薬物回復支援では関係者と連携して薬物ミーティングをリモート開催で継続できている。
- 地域ボランティア活動は、参加者が見込まれず活動を見送った。

### ■全体を通して

- 地道ではあるが、個別課題の解決を通して具体的な連携を呼びかけることが密接かつ強固な連携につながることが多い。
- ホームページは、連携の糸口となりうる機能を発揮する。
- ネットワーク協議会は、既存の連携の強化や継続性を高める効果があるが、連携団体の拡大に必ずしもつながらない。
- 再犯防止推進法をよりどころとした施策や国の委託事業は、連携のきっかけを提供するものとして大きな効果をもたらす。
- 一口に連携といっても、目的や手法がさまざまであり、それぞれに応じた働きかけの戦略がなければネットワークの形成は難しい。そもそも連携は手段であり、受益者への支援を目的としてどのような連携スタイルが適切かを明確にする必要がある。

### (まとめ)

全体的なネットワークを維持しつつ、個別支援に基づくケースのネットワーク作りが中心的な成果となった。そのきっかけは、令和3年10月から法務省の委託を受けて清心寮がアウトリーチ型の訪問支援事業を開始し、個別ケースについての具体的な連携が可能となったことである。併せて、助成団体からソーシャルワークの進め方について、講義と助言をいただいたことが、新たな方針を決定づけた。

# 4. アウトカムの分析

## ロジックモデル

## 【地域の力をつないだ複合型再犯防止事業】

### 中期 アウトカム

埼玉県内において、罪を犯した人や非行少年が、自分たちの抱える複雑で多様な課題を解決するために必要な支援を、多様な機関・団体・個人から得られる状態になることで、再び犯罪に走ることなく、社会の一員としてこの地域に居場所を作れるようになり、犯罪や非行のない地域社会になる。

### 短期 アウトカム

01

多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる（清心寮に入所した人（当事者）がこのような体制による支援を受けられるようになる）

02

罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。

03

（薬物乱用・依存歴のある）  
罪を犯した人が、断薬期間を維持し、気軽に悩みや相談できる場所を確保して居場所を見出すようになる。

04

非行少年等が、自分の住む地域の多様な住民とのつながり、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。

### アウトプット

0101

社会復帰支援ネットワーク協議会に県内の多様な機関・団体が参画し、定期的な情報共有・意見交換と顔の見える関係ができる。

0201

就労開始後に就労支援フォローアップを受けて、就労支援専門員とつながる状態になる。

0301

薬物回復支援を継続的に受けられる状態になる。

0401

地域のボランティア活動に参加し、支援ボランティアとつながる状態になる。

### 活動

■多様な機関が参画するネットワーク協議会を定期開催する ■県下の支援拠点にリモート環境を整備し情報交換を行う ■連携団体が支援に協力し良い関係が維持される ■連携団体を増やすための広報活動を行う ■職員が連携のコーディネートを担う仕組みを作る

■就職後の対象者と雇用主に対して定着支援を行う ■対象者の抱える課題に応じて関係機関につなぐ等の支援を行う

■退寮者のうち対象者を選定し開催通知を送付する ■グループミーティングを定期開催する

■ボランティア活動の具体的内容を企画立案し参加者を募る ■ボランティア活動を隔月開催する

(1) アウトカムの計画と実績

短期アウトカム <b>01</b> (1/2)	多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる。 (清心寮に入所した人(当事者)がこのような体制による支援を受けられるようになる) 目標達成時期   2023年1月		
指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況(実績)
①具体的な支援を提供している団体数とその内容	①既存のネットワーク協議会参加団体24団体については、自立生活に何らかの問題を抱えている者に対して、必要な支援をしている。各機関で補えないことも多く、連携しているが更に強いつながりが必要である。	①・参加団体の100%が具体的な支援を提供する。  ・各団体が支援可能な内容であれば断ることなく提供する関係性を築く	・100%実施できている <b>【目標値達成】</b> 清心寮退所後の支援(訪問支援事業)において、他機関の支援が必要な場合、各団体ともに支援参加を受け入れており、すべての団体が依頼されれば支援に参加する状態になっている。 なお、個別支援において、協議会参加団体以外の団体に新たな支援依頼をする場合において、清心寮の関与を明確に説明することにより、リスクや負担の共有が理解され、連携を快諾されている。  ・目標値の関係性を築けていると判断する <b>【目標値達成】</b> ネットワーク協議会についてのアンケート調査(23団体(清心寮除く)中13団体が回答)でも、次のようにおおむね積極的な回答を得ている。(詳細は巻末資料参照)  (1) ネットワーク協議会参加理由について、13団体すべてが「他の機関・団体と連携して支援に取り組むため」と支援に前向きな態度を示している。なお、2位は「他の機関・団体の活動を知りたい」(11団体)、3位は「清心寮の活動に共感したため」(8団体)となっている。 (2) 個別意見でも「実際に連携してできそうな取組の具体例と一緒に考えることができると良いと思います」など、具体的支援に関わる意見が多かった。

短期アウトカム  
01  
(2/2)

多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる。  
(清心寮に入所した人(当事者)がこのような体制による支援を受けられるようになる)  
目標達成時期 | 2023年1月

指標	初期値 / 初期状態	目標値 / 目標状態	アウトカム発現状況(実績)
<p>②当事者が、社会復帰支援地域ネットワーク参加機関を含む地域の諸機関の適切な支援につながっている (①十分な支援がついている/ ②十分とは言えないまでもある程度の支援がついている/ ③ほぼ支援がついていない/ ④まったく支援がついていない)</p>	<p>②不明 (未測定)</p>	<p>②清心寮を退所時に当事者の100%、退所9ヶ月後に当事者の80%が、《①十分な支援がついている、②十分とは言えないまでも必要な支援はついている》と判断できる</p>	<p>②清心寮退所後も引き続き清心寮からの支援を受けた者を対象に実施したアンケートで、「自分には頼れる人や相談先があると思う」の項目に対して、「少し/とても当てはまる」と回答した人の割合は、退所直前が69%、現在(アンケート回答時点)が64%であった。 【目標値未達成】</p> <p>※退所後に支援がついているかどうか、支援側の認識ではなく、本人にとって“頼る先があるかどうか”の意識を問う形に代えて調査した。 (支援側が支援がついていると認識していても、それが本人にとって助けになるものでなければ、支援が有効に機能しているとは言えないため)</p> <p>※退所時と退所9ヶ月後の状態変化が測定できるような目標値を設定していたが、アンケート実施が間に合わないケースがあったため、アンケート回答時点(2022年11月~2022年12月)において、退所する直前の気持ちを振り返って問う項目と、現在の気持ちを問う項目を設け、前後比較を測定した。</p> <p>※清心寮退所時期を問う設問では、回答者のうち、退所から半年以内の人が57%を占めた。</p> <p>(次ページに上記のアンケートと、指標に直結しないがアウトカムに関連したほかアンケート結果一部掲載。詳細は巻末資料参照)</p>

調査対象者：清心寮退所後も引き続き清心寮からの支援を受けた者24人を対象、うち14人から回答を得た（回収率58%）

	回答時点		全く 当てはまら ない	あまり 当てはまら ない	どちらとも 言えない	少し 当てはまる	とても 当てはまる	合計 (無回答)
			人数	人数	人数	人数	人数	
2-4. 自分には頼れる人や相談先があると思う	退所直前	人数	1	0	3	3	6	13 (1)
		%	7.7%	0%	23.1%	23.1%	46.1%	100%
	現在	人数	2	1	2	1	8	14 (0)
		%	14.3%	7.1%	14.3%	7.1%	57.1%	100%

3. 清心寮を退寮したのはいつ頃でしたか？

※アンケート実施時期は2022年11月～12月

2020年：3月、11月（3名）
2021年：1月
2022年：1月、6月、7月（2名）、8月、9月（2名）、10月、11月

2-9. あなたにとって頼れる人、相談先は誰ですか？（当てはまるもの全て）

親戚	2
配偶者（交際相手）	1
友人	3
知人	3
仕事の関係者	2
保護司	4
就労支援事業者機構のスタッフ	1
清心寮スタッフ	7
自治体相談窓口のスタッフ	2
頼れる人は一人もいない	3
その他	1
母	

・回答者が、清心寮を頼りにして、支援を肯定的に受け入れている様子が見られる

1-2. (退所後に) 清心寮スタッフが訪ねてきて、どう思いましたか？（当てはまるもの全て）

N 36  
※全回答数

回答内容	人数	意見	割合
ホッとしました	4	肯定的意見	32 (89%)
話せて良かった	5		
会えてうれしかった	5		
楽しかった	3		
満足した	2		
困りごとが解決した	1		
不安が減った	5		
悩みが軽くなった	4		
明日も頑張ろうと思った	1		
物足りなかった	1		
嫌な気分になった	1		
残念な気持ち	1		
その他	3	その他	1 (3%)
まだ来ていない		その他に計上	
恩師、恩人のH先生が連絡、はるばる来てくれて感謝		肯定的意見に計上	
生活が苦しい時、何度も助けていただいた		肯定的意見に計上	

調査対象者：清心寮退所者の支援に際して、連携した機関8団体を対象、うち6団体から回答を得た（回収率75%）

1-3. 支援していただいているあいだのことをお尋ねします。

清心寮退所者に対する支援について、ご不安等ありましたか？

とてもあった/とてもある	支 援 前	1	現 在	0
少しあった/少しある		1		0
どちらでもない		1		2
あまりなかった/あまりない		1		2
まったくなかった/まったくない		2		2

2-3. 貴団体のご支援中、清心寮のフォローアップは貴団体としては、  
満足のものでしたか？

とても満足した	2
少し満足した	4
どちらでもない	0
あまり満足していない	0
まったく満足していない	0

2-4. 清心寮職員の依頼後の状況把握やフォローアップは、貴団体の不安軽減や  
支援に役立ちましたか？

とても役に立った	3
少し役に立った	2
どちらでもない	1
あまり役に立たなかった	0
まったく役に立たなかった	0

- ・ 清心寮退所者に対する支援について、支援を通して連携した機関の不安が減っている様子うかがえる
- ・ 支援中の清心寮からのフォローアップに対して、満足度が高い様子うかがえる
- ・ 支援依頼後の清心寮のフォローアップが、連携先の不安軽減に役立った様子うかがえる

⇒ これらから、清心寮と関係機関との連携が進み、関係機関が対象者に支援を前向きに提供できるようになりつつある様子うかがえる。

調査対象者：清心寮退所後も引き続き清心寮からの支援を受けた者24人を対象、うち14人から回答を得た（回収率58%）

**2-7(1). これまで清心寮を通じて紹介してもらった人や相談先はありますか？**  
(当てはまるもの全て)

就労支援事業者機構（就労先）	4
行政（生活保護）	4
行政（福祉）	0
病院	1
福祉事務所・作業所	2
シェルター	0
依存症回復支援団体（ダルクなど）	0
不動産業者	0
法律相談（弁護士会・法テラスなど）	0
特に紹介してもらっていない	4
その他	2
訪問看護ステーション	
障害者生活支援センター	

**2-7(2). 紹介してもらった人にお尋ねします。**  
紹介してもらったことをどう思いますか？

とても良かった	4
まあ良かった	1
どちらでもない	1
あまり良くなかった	0
まったく良くなかった	0

**2-8. 現在、つなげてもらいたい、紹介してもらいたい人や相談先はありますか？**  
(当てはまるもの全て)

就労支援事業者機構（就労先）	3
行政（生活保護）	2
行政（福祉）	2
病院	0
福祉事務所・作業所	0
シェルター	0
依存症回復支援団体（ダルクなど）	1
不動産業者	1
法律相談（弁護士会・法テラスなど）	2
特に希望はない	7
その他	0

・清心寮を通じて紹介した相談先は、就労先と生活保護が若干多いが、「特に紹介してもらっていない」も同数である。  
 ・今後本人がどこにつなげてほしいかという希望では、「特に希望はない」が最多。  
 ⇒紹介してほしいというニーズは必ずしも高くないようだが、紹介してもらった人はおおむね良かったと答えており、関係機関との連携が、対象者にとっても役立つものであった様子がうかがえる。

短期アウトカム  
02

罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。  
目標達成時期 | 2023年1月

指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況（実績）
<p>①6か月以上継続して稼働継続している人数（割合）</p> <p>②就労を継続している人の成り行き（資格取得、職場での昇給昇格、本人の満足度等）（アンケート・インタビュー）</p>	<p>①40%程度（フォローアップなし）</p> <p>②0</p>	<p>①初期値より30%アップ</p> <p>②就職時よりいずれかの状態が改善している者が50%以上</p>	<p>①6か月以上継続して稼働継続している人数（割合）</p> <p>2020年度 8人 5.8%（137人中）</p> <p>2021年度 25人 19.4%（129人中）</p> <p>2022年度 13人 33.3%（39人中）</p> <p><b>【目標値未達成】</b></p> <p>初期値40%については、過去の実績を踏まえ、達成可能な目標として設定したが、2020年度は、コロナ禍の初年で休業や待機が増加し、対象者の多くが、実際の稼働がある企業への移動を行ったため、長期定着割合が振るわなかったと思われる。2021年度以降徐々に定着の改善傾向がみられるが達成には至らなかった。</p> <p>②100% <b>【目標値達成】</b></p> <p>職場定着支援を受ける就労支援対象者34人のうち、調査実施（2022年11月）時点で退職していない者13人にアンケートを送付し、7人が回答。（回収率54%）</p> <p>「働き続けて良かったこと得られたことは何ですか」の設問に対し、「生きがい、やりがいがあった」「犯罪に無縁な規則正しい生活ができるようになった」「免許資格が取得できた」「生活資金をためることができた」「昇給昇格した」等の状態改善を表す選択肢すべてに複数人が当てはまると回答していることから、回答者の100%が、いずれかの状態が改善していると判断する。（次ページにアンケート結果一部掲載。詳細は巻末資料参照）</p> <p>補足：就労継続者の成り行き（支援事例）については、11ページ参照</p>

調査対象者：職場定着支援を受ける就労支援対象者34人のうち、調査時点で退職していない者13人にアンケートを送付し、7人が回答。（回収率54%）

3. 働き続けて良かったこと、得られたことは何ですか。 (複数選択可)

生活資金を貯めることができた	5
住居（社員寮やアパート）を確保できた	5
規則正しい生活ができるようになった	6
技術や能力が高まった	3
免許・資格を取得した（免許・資格名）	3
昇給した、給料が上がった	2
昇格した、職場内で身分（役職）が上がった	2
居場所ができた	3
仲間や知人ができた、孤独でなくなった	4
犯罪とは無縁な健全な生活をすることができた	6
生きがい、やりがいがあった	3
家族や周囲から信頼されるようになった、頼られるようになった	3
その他	0

- ・ 回答者の多くが、働き続けたことで得られたことが複数ある様子がうかがえることから、就労を継続することで、社会的にも精神的にも自立した状態に近づきつつあると思われる。

短期アウトカム  
03

(薬物乱用・依存歴のある) 罪を犯した人が、断薬期間を維持し、気軽に悩みや相談できる場所を確保して居場所を見出すようになる。  
目標達成時期 | 2023年1月

指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況 (実績)
①回復支援に複数回参加している人の人数	①1人 (1~2月試行実施分)	①初期値より10人増	①初期値より4人増の5人。 【目標値未達成】 就労している者が大半であり、事前登録は多いものの、残業などでキャンセルする機会が多い。出入り自由の緩い関係であるので、参加が続いているといえる。リモートの場合、率直な話ができにくく、断薬のための動機づけも難しくなるため、専門家側もやりにくいと答えている。
②薬物回復支援実施日以外に相談してきた人の数	②8人 (1~2月試行期間に電話相談した人数)	②回復支援参加者の10割を目指したい	②15人。 【目標値達成】 ミーティング以外の日も自由に連絡することを可能としているため、通信は多い。清心寮からも状況把握しているため、関係は保たれている。やむを得ない事情でミーティングから離脱した人を除けば100%。
③薬物回復支援の協力者・協力団体の拡充	③2者 (埼玉ダルク、個人協力者1名)	③4者 (団体もしくは個人)	③5。 【目標値達成】 もともと埼玉県内に関係者が多くなく、担当者のつてで関係構築に努力した結果、何らかの支援をいただいている団体個人は、5者となった。3者については、ミーティング開催への協力。2者については、支援対象者の断薬の取組みについての支援取次先としての連携である。

短期アウトカム 04	非行少年等が、自分の住む地域の多様な住民とのつながり、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。 目標達成時期   2023年1月		
指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況（実績）
<p>①活動に参加して「自分が役に立ててよかった」と感じた少年数</p> <p>②参加少年のその後のナラティブ</p>	<p>0 (未調査)</p>	<p>①参加者数の8割</p> <p>②参加少年が地域で意欲的に生活している状態</p>	<p>①参加者は1名で、アンケートを取ることができず、同指標は把握ができなかった。【目標値未達成】 その理由は、コロナ禍の中で3密につながる集団活動の自粛の要請があり、スタッフ・参加者ともに確保できず、活動1回・参加者1名にとどまり、代替措置も考案できなかった。「社会貢献活動」という当初の縛りから抜け出せず居場所の確保という広い意味での交流の場を考案すればよかったと後悔している。BBSには迷惑をかけたと考える。なお、1名の参加者は参加して自己有用感があったと述べている</p> <p>②本指標は把握できていない。【目標値未達成】 上記と同じ理由</p>

## (2) アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回って達成できている <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値が達成できている <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	コロナ禍の中で、生の連携が難しく2021年度中は活動が困難を極めた。ネットワーク協議会は、それぞれを事業についての情報交換が主となり、個別ケースの連携までに至らなかった。少年のボランティア活動については、事業そのものが中断した。

### 4-2 事業の効率性

事業実施のためのインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか

【投入資金が効率的に使われたか】	
<b>実際に事業で使った金額と種類</b>	合計 15,372,572 円 ※2023年4月末 推定値 事業費：15,320,516 円（内訳 直接事業費：14,170,305 円 / 管理的経費：1,150,211 円） ※上記事業費には、自己資金：3,414,609 円 を含む 評価関連経費：52,056 円
<p>事業費の多くは就労支援員の人件費と就労支援用の車両リース料に投入された。フォローアップの実人数は目標を大きく下回っているが、新型コロナウイルス感染拡大が収束の兆しがなかったこと、また、埼玉県就労支援事業者機構の局長が2022年4月に交代したこともあり、実績は下回っても事業成果は妥当であり、今後継続的に活動を維持していく上で質の向上が図れることは確認できた。</p> <p>一方、コロナ助成に関連して、リモート関係については、外部に発信するホームページの作成、リモート会議の実施（2回）などリモートの環境整備が整えられ、令和5年度以降にも継続的に利用でき、効果は高いと考えられる。併せて、埼玉県保護司会連合会によって埼玉県内地区保護司会にリモート端末を7台配付するとともに、個人貸し出し用のリモートも配備した。これにより、リモートによる薬物ミーティング（11回）や職場定着支援（2回）を実施した。これも令和5年度以降にも利用でき、遠隔地の関係団体との協議や、遠隔地に居住する者の支援に効果があると考えられる。</p>	

### 特に社会課題解決に貢献したアウトカム

〔短期アウトカム01〕 多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる。  
(清心寮に入所した人(当事者)がこのような体制による支援を受けられるようになる)

【4桁アウトカムの経緯】 短期アウトカム01は、当初、事業以前から取り組んできていた「地域支援ネットワーク協議会」の充実・発展を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、清心寮は埼玉県内唯一の更生保護施設であるため、万一感染症が拡大すると刑務所出所者等の受け入れに支障を来すことから、厳格な活動規制をせざるを得ず、協議会を開催できない状態が続いた。そこで、中間評価時に、日本更生保護協会のPO及び評価アドバイザーの新藤健太氏(日本社会事業大学講師)とともに短期アウトカム01についてのロジックモデル整理を行い、単独で社会生活自立に取り組む対象者の立ち直りの継続をネットワーク形成を目標に、より具体的支援に近いネットワークの生成に取り組む活動を追加した。その際に、短期アウトカム01を達成するために必要と考える下位アウトカム(4桁アウトカム)を複数設定したが、計画書の「アウトプット」欄に記載したものである。

〔4桁アウトカム0101-01〕 連携すべき機関・団体が明らかになる

清心寮は、これまでも地域の関係機関団体との間でネットワークを形成してきたが、その主たる目的は、①犯罪非行をした人の立ち直りには特殊な支援ではなく福祉医療などの地域に根差した支援を継続的に提供していくことが真の社会復帰の実現と再犯防止に重要であることをネットワークを通じて常にアナウンスしていく、②ネットワーク構成員である機関団体が具体的にどのような関与ができるかを共有する、③ネットワーク構成員が対象者に対して抱く不安や疑問を明確にし解決方法などについて共有する、である。ネットワーク構成員の多くは、犯罪からの立ち直りに何らかの関与をしている機関団体がほとんどであることから、共通認識は深まっている。現在のネットワークを地域社会の中でいたずらに拡大することは、ネットワーク運営の目的が拡散しコントロール不能になると考えている。

そこで本事業では、清心寮が退所者に対して実施する生活相談事業(フォローアップ事業、訪問支援事業)を活用し、助言指導にとどまらず、課題解決に向けて具体的な支援ができる機関・団体との協働・取次を実施することで、個別ケースに対応できる実務的な連携関係を構築することとした。各人の有する諸課題は種々であるが、解決目標を、再犯リスクを低減することに資する次の4点、①生活基盤(仕事と家)を手放さないこと、②健康や生活規律が保持されていること、③犯罪傾向が抑えられていること、④地域と融和できていること、とし、目標達成のために連携すべき機関団体を明確にし、課題解決を通じて連携先を生み出すこととした。

そうすると、課題解決のために関係者との協議や共同が必要なケースが多数発生した。この中から他のケースにも活用できる機関団体をピックアップし永続的に連携していく団体としてリスト化することができた。なお、例えば対象者が賃借しているアパートの大家などは居住の支援をするうえでピンポイントの連携をしており、永続的な関係はないものの、連携のノウハウは蓄積され、不特定多数の「大家」を連携先に準じて扱うことができています。

〔4桁アウトカム0101-05〕 清心寮の職員がコーディネートの機能を果たすようになる

上記①の支援及び連携を通じて、社会生活課題の類型的整理、連携先への支援依頼する際の説明方法、清心寮が引き続いて支援の一端を担うこと、連携の役割分担(連携先と本人との関係の調整や連携先への本人とともに同道などが多い)などのノウハウが得られ、それを職員全体で共有化し、訪問支援などに効果的に活用している。

ただし、清心寮の職員がコーディネートの機能を果たすには、当初スキルが不足していた。ケアマネジメントやストレングスモデルの研修を実施し、それを処遇に活かす仕組みも採用した。職員の処遇に対する考え方や技術を少しずつ改善できたと考えている。

## 特に社会課題解決に貢献したアウトカム

〔4桁アウトカム0101-03〕連携機関・団体間（清心寮含む）の役割分担が明確になり、それぞれの機関・団体が刑務所出所者等支援に不安なく関わられるようになる。

〔4桁アウトカム0101-04〕連携する機関・団体との良い協力関係が維持される（担当者が代わっても組織間の良い協力関係が維持される）

### 〔成功要因〕

社会生活上の課題解決に関しては、連携先の機関団体が本来の役割として主体的に対応をする場合がほとんどである。清心寮の役割は、①入り口の段階で対象者の事情を連携先に適切に情報提供する、②対象者に対しては連携先の支援の内容や守るべきことなどの留意点をよく理解させる、③同行するなどしてスムーズなサービス提供を促す、④トラブルなどについての調整役、仲介役となる、など触媒の役割を担うことが多く、それが清心寮に対する連携先の期待にもなっている。

そこで、上記のような役割を連携先に伝えて清心寮の役割を明確にし、清心寮が「黒子」役に徹し、月に1, 2回は協議を行うなど、連携を切らさないようにしている。社会生活の自立の度合いを高めるため、清心寮の関与を徐々に薄めている。このようにメリハリのある支援方式をとっているため、連携先も清心寮への過度な依存はなく、責任の所在も明らかになっている。

---

〔短期アウトカム02〕罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。

### 〔成功要因〕

就労支援から関係を持ち、3か月の定着支援を行い引き続きフォローアップに繋がられたケースは、雇用主とも支援対象者とも一定の関係を維持し続けられており効果があった。

## 特に達成が困難であったアウトカム

〔短期アウトカム01〕 多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる。

(清心寮に入所した人(当事者)がこのような体制による支援を受けられるようになる)

### 〔課題の分析〕

埼玉社会復帰支援ネットワーク協議会については、コロナ禍において、初年度(2020年度)の会議中止はやむを得ないものであった。代替措置としてリモート会議を検討したが、不慣れなため準備や着手に手間取り、3日目になりようやく2回の会議をするにとどまった。会議は対面ですべきとの意見もあり、連携に深みを持たせるためには、対面でなければならないとの考えもみられた。リモート時代において協議会の役割を再検討したところ、連携の意義そのものについて修正することになった。記述した通り、これまでは、将来の連携を見込むことができる県内の代表的な機関団体を連携先とし、構成員数を拡大することを目標としていた。本事業の途中見直しにおいて、目標を①受益者である対象者の満足度や課題解決の程度、②連携による連携先の満足度、取組成果の程度に修正し、個別ケースに関わる機関団体を連携先としてその数を拡大していくことにしている。当初の取組み目標は、全面的に見直さざるを得ず、未達成となってしまったが、アウトカムを据えて事業の視点を考えていくことができたことは、成果となっている。

〔短期アウトカム02〕 罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。

### 〔課題の分析〕

支援対象者が支援員とのやり取りを避けている場合や携帯電話を所持していないか又は番号の開示が無い場合は関係作りが難しく支援が困難である。特に協力雇用主でない会社への就労だと連絡できない場合がほとんどで、更生保護施設内で支援対象者へ声掛けする程度が精一杯で、良いフォローアップに繋がらなかった。

〔短期アウトカム04〕 非行少年等が、自分の住む地域の多様な住民とのつながり、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。

### 〔課題の分析〕

居場所のない孤立した非行少年等に、地域の人たちと一緒に、社会貢献活動などの有意義な活動に取り組ませることにより、居場所があると感じられるようにすること及び社会の一員としての自己効用感を高めさせることを目標としている。目的はわかりやすく意義のあるものであるが、コロナ禍においてこの種の集団活動は3密として自粛の対象になっているため実施が困難となった。代替案を検討すべきであったが、社会貢献活動にこだわったあまり柔軟な発想ができなかった。結果として、1回1人で打ち切りとした。

反省点としては、①川岸の雑草取りが活動のプログラムであるが、社会貢献活動にかぎらず達成感や自己効用感、交流による居場所感を得られるものとしてどのような活動が適切か、事前によく協議すべきであった、②プログラムについては、対象者に内容や意義を教示し動機づけをすることが必要であった、③非行少年等と地域住民の交流を目標とするのであれば、少年を取り巻く地域の方々との交流を考えるべきではないか、④非行少年等が地域の普通の人として地域の中で交流できるようにアレンジすべきではないか、などである。社会で孤立する人が増加する中、対象者のみの居場所探しではなく、社会全体の取組みの中に対象者を組み入れる仕組みづくりが適切ではないかとも思われる。

## 5. 考察

### 事業全体を振り返っての考察

#### 波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

##### 1 更生保護施設の施設内処遇（宿泊保護）へのノウハウの逆輸入

更生保護施設は、身寄りや住居のない刑務所出所者等に、宿泊サービスや食事を提供し、寝食の心配なしに生活基盤（就労や住居）の確保を後押しする事業である。早期の社会生活移行を目的とするため生活基盤の確保が中心課題となっている。いきおい更生計画も就労、住居、生活保護サービスなどの生活基盤の確保を目指す短期的なものにならざるを得ない。生活規律など健全な生活を営むための指導や犯罪傾向を改善するための指導も実施しているが、滞在期間が平均3か月前後と短いため、中途半端なものにならざるを得ない。

本事業では、事業期間の途中から、単独で社会生活自立に取り組む対象者の立ち直りの継続をネットワーク形成の目標とした。それに取り組むスタッフは、宿泊保護のノウハウを活用して退所後の訪問支援を実施し、連携が必要な機関団体との新たな連携を模索してきた。訪問支援の実績が上がるにつれ、宿泊保護と訪問支援が一つのまとまった支援としてみなされるようになった。更生計画も、退所後の地域生活（訪問支援）までを想定した中長期的なスパンを意識するようになっていく。宿泊保護（清心寮入所）の時点において、退所後に想定される連携先について考える能力も身に付けられるようになっていく。

宿泊保護の「生活基盤の確保」についても、訪問支援の「生活基盤（仕事と家）の維持」、「健康や生活規律の保持」「犯罪傾向の抑制」「地域との融和」を俯瞰して、退所後の生活スタイルを念頭に置いて取り組むことが可能になっている。まだまだ十分ではないが、意識は高まっていると史料する。

##### 2 社会生活移行から生活自立の継続へのネットワークのシフトの変化

ネットワーク形成の在り方についても変化せざるを得ない。「社会生活移行」を主題とすると、刑事司法・更生保護から就労支援、福祉、住居確保支援へのバトンタッチに関連する公的機関や地域の団体が構成員となることが多いが、「一人ひとりの生活自立の継続の支援」を主題とすると、彼らの生活空間で具体的にかかわる雇用主、福祉担当者、クリニック、グループホーム管理者、アパート大家など身近なネットワーク形成となり、それが蓄積すると、連携先の集約やカテゴリー化といったネットワークの分類整理が作業課題となる。本事業を通じて形成しようとして取り組んできた新たなネットワークの方向性は、これまで清心寮が指向していた「（地域生活への）円滑な移行」とは異なる「（地域での）生活の自立継続の実現」のためのものとなっており、従来のもよりも、実務に即した密接な連携を確保することができてきている。

### 提言

上記の通り、構成メンバーが固定される従来型のネットワークに加え、個別ケースに基づく、より具体的支援に近いネットワークが生成されつつある。前者のネットワークは後者の土台となる重要なネットワークであり、ネットワークの広報周知の機能も有している。後者はケースに即して迅速かつ機動的なネットワーク形成が必要である。キーとなるのは、地域に根差し各人に応じた連携を素早く構築できる、小回りの利くコーディネータである。清心寮では、宿泊保護の補導員が退所後の訪問支援を引き続いて担当するので、各補導員がコーディネータの役割を担っている。したがって、専従のコーディネータは採用していない。休眠預金事業終了後も更生保護施設としての体制は変わらないため事業継続は問題ない。本事業では、体制作りよりも、ノウハウを高めたことに意義があった。訪問支援を実施する担当者が実地で連携のコーディネートに取り組み、その経験を蓄積して、支援のノウハウや連携候補を共有することができている。

更生保護施設は、入所者の管理的支援は得意だが、本人の生活実情に応じた柔軟なケースワークやフィールドワークの経験は浅い。訪問支援は、ケース対応力を高める絶好の機会である。経験がノウハウを育むが、ケースワークを食わず嫌いで忌避することのないよう、ケースに前向きに取り組むことのできる職員の確保育成が課題となるであろう。

### 知見・教訓

刑務所出所者等の更生・立ち直りを指導援助する更生保護は、刑事司法の一翼を担う分野である。出所者等の社会での立ち直りに関わりながら、社会生活に関わる分野を所掌していないため、これまでいくつかの独特なネットワークが形成されてきた。

それは、次のような連携関係である。

- ① 社会から忌避されがちな出所者等の立ち直りは、従来、保護司、更生保護施設などの少数のボランティアが担ってきた。これらボランティア団体を中心に刑事司法関係者が立ち直りの為の固有のネットワークを築いてきた。
- ② 出所者等が社会生活に移行するためには、就労支援、生活保護などの福祉、医療といった一般サービスを利用することになるが、出所者等が社会から忌避されやすいため、サービスや制度を円滑に利用することが難しい。そこで、更生保護と雇用、福祉、医療、住宅などの関係者が、円滑な利用のためのネットワークを形成してきた。
- ③ 社会が対象者が忌避する主たる原因は、彼らと関わる際に生じるかもしれないリスクへの不安である。そこで、更生保護関係者は、支援者の不安を軽減するための取り組みや、負担を分担して軽減するための連携を図ってきた。
- ④ 出所者等は、家族や仕事、住居をはじめ多くのものを失い、様々な生活課題を抱えて社会復帰に取り組まなければならない。再犯リスクの改善など他分野で扱うことのできない課題もある。それらの課題を更生保護関係者がワンストップで支援し、関係分野につなぐことで複合的な連携が形成されえきた。

### 知見・教訓（つづき）

以上の連携関係をひとまとめにして、多機関連携ということがあるがそれぞれが、混ざり合って複雑なネットワークになり、收拾がつかない事態ががしばしば起こりうる。

さらに、訪問支援事業のような、社会生活移行後の地域での見守り支援が加わり、新しいネットワークの形成も期待されている。

ネットワークは手段に過ぎない。連携が不可欠な更生保護では、ややもすると「何のためにネットワークを作るのか」という目標を見失いがちになるが、今後は、目標を整理し、目標に即して連携先を特定する機動的でスリムなネットワーク形成が理想的であると考ええる。

社会生活移行に進行すると、更生保護のウエイトは縮小するはずであるが、雇用主、医療福祉、大家などからは、清心寮などの更生保護団体に対して、退所者の保証人（や後見人）に近いような重い役割を期待されることがしばしばである。更生保護が手を離せないのはやむを得ないとしても、自助による本人の責務を尊重し、「出所者」「犯罪前歴者」ではなく一般生活者としてかかわっていく各分野との関わり方について、段階的な指導や、連携の在り方を明確にする必要があると考える。

### 助成終了後の展望

本事業については、事業を継続することとしている。なお、社会貢献活動については手法を再検討した上で、実施の方向で考えていきたい。

ネットワークについては、令和4年10月から清心寮を含めた3団体の共同事業「更生保護地域連携拠点事業」と重複する部分が多く、整理して拡大していきたい。資金調達については、本事業で事業基盤が確立しており、原則として自己資金で実施していく。なお、薬物ミーティングなどの個別支援については、2023年度以降、法務省の施策として、専門的な個別支援に対する委託費が創設される見込みであり、これを利用して実施していきたい。

## 6. 結論

### 6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
1. 課題やニーズの適切性			○		
2. 課題やニーズに対する事業設計の整合性	○				
3. 事業実施のプロセス	○				
4. 事業成果の達成度	○				

### 6-2 事業実施の妥当性

上記のなかで重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として、事業の妥当性についての考えを自由記載してください。

課題やニーズ把握については、公的な統計や実際の支の中で把握・整理したものでありおおむね妥当であったが、それ以外の部分については、途中で大幅に事業計画を変えることとなった点や、アウトプット・アウトカムの実績を踏まえて、このような評価とした。

重要と思われる点としては、以下のとおり。

刑務所を釈放された人は、犯罪をしたことで信用や財産、仕事を失い、受刑により一定期間社会と隔絶することにより以前の社会生活が途切れ、社会生活の絆を喪失する。彼らの立ち直りを円滑に進めるためには、社会生活に関わる機関団体との連携は必須である。したがって、本テーマである「**地域の力をつないだ複合型再犯防止事業**」は、更生保護施設の事業の特性に鑑みて必要な取組みであるが、あまり意識して考えたことはなかった。この事業では、ネットワーク形成について体系的に整理することで、これまで以上に戦略的な事業展開を行うきっかけとなり、事業の妥当性はあると考えている。

ただし、上述した通り、ネットワークは手段であるから、やみくもに連携を図るのではなく、個別の事業設計に即したネットワークを作っていくことが重要であると考えているところである。そのためのツールとしてのエコマップなどを活用して、課題やニーズを個別に抽出し必要な支援を整理して、事業設計の改善を図っていくことが、次のステップとして進めるべきことであると考えている。

## 7. 資料

No.	内容	ページ数
1	事前評価時の短期アウトカム／最新の短期アウトカム	p.41
2	アウトプット0101-05   入寮時調査及び更生計画書	p.42
3	アウトカム01   清心寮の退所後支援・他機関へのつなぎについての本人向けアンケート <様式>	p.43
4	同上 <結果>	p.44～46
5	アウトカム01   清心寮からの支援連携についての関係機関向けアンケート <様式>	p.47～48
6	同上 <結果>	p.49～50
7	アウトカム01   ネットワーク協議会についてのアンケート <様式>	p.51
8	同上 <結果>	p.52
9	アウトカム02   就労支援についての本人向けアンケート <様式>	p.53
10	同上 <結果>	p.54～55
11	アウトカム02   就労支援についての事業主向けアンケート <様式>	p.56
12	同上 <結果>	p.57～58

事前評価時の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
1. 社会復帰支援地域ネットワーク協議会の設立推進により、多様な機関・団体が、再犯防止支援への一般的な理解賛同ではなく、具体的な支援を提供する状態になる。	①具体的な支援を提供している団体数とその内容 ②県内の既存ネットワークとの連携構築・強化 ③薬物回復支援の協力者・協力団体数	なし	①参加団体の100% ③初期値より増加	2023年1月
2. 就労支援フォローアップを受けて就労支援専門員とつながることにより、就労が継続し、経済的に自立するとともに、家族を得たり、職場で指導的な立場に立ったり、自分に自信を持つなど、社会的精神的にも自立した状態になる。	①6か月以上継続して稼働継続している人数(割合) ②就労を継続している人の成り行き(資格取得、職場での昇給昇格、本人の満足度等)(アンケート・インタビュー)	①40%程度(フォローアップなし) ②/なし	①初期値より30%アップ ②就職時よりいずれかの状態が改善している者が50%以上	2023年1月
3. 薬物回復支援を受けることにより、断薬期間を維持し、気軽に悩みや相談できる場所を確保して居場所を見出すようになる。	①回復支援に複数回参加している人の人数 ②薬物回復支援実施日以外に相談してきた人の数	①1人(1~2月試行実施分) ②0	①初期値より10人増 ②回復支援参加者の10割を目指したい	2023年1月
4. 非行少年等が地域ボランティア活動に参加することにより、自分の住む地域の多様な住民とのつながりができ、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。	①活動に参加して「自分が役に立ててよかった」と感じた少年数 ②参加少年のその後のナラティブ	なし(未調査)	①参加者数の8割 ②参加少年が地域で意欲的に生活している状態	2023年1月

最新の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
1. 多様な機関・団体が、社会生活の自立に取り組む者に対して具体的な支援を直接かつ容易に提供できるようになる(清心寮に入所した人(当事者)がこのような体制による支援を受けられるようになる)	①具体的な支援を提供している団体数とその内容 ②当事者が、社会復帰支援地域ネットワーク参加機関を含む地域の諸機関の適切な支援につながっている (①十分な支援がついている。②十分とは言えないまでもある程度の支援がついている ③ほぼ支援がついていない ④まったく支援がついていない)	①既存のネットワーク協議会参画団体24団体については、自立生活に何らかの問題を抱えている者に対して、必要な支援をしている。各機関で補えないことも多く、連携しているが更に強いつながりが必要である。 ②不明(未測定)	①参加団体の100%が具体的な支援を提供する。各団体が支援可能な内容であれば断ることなく提供する関係性を築く。 ②清心寮を退所時に当事者の100%、退所9ヶ月後に当事者の80%が、「①十分な支援がついている、②十分とは言えないまでも必要な支援はついている」と判断できる	2023年1月
2. 罪を犯した人や非行少年が、就労を継続して経済的に自立し、家族を得たり職場で指導的な立場につくなどして自分に自信を持ち、社会的にも精神的にも自立した状態になる。	①6か月以上継続して稼働継続している人数(割合) ②就労を継続している人の成り行き(資格取得、職場での昇給昇格、本人の満足度等)(アンケート・インタビュー)	①40%程度(フォローアップなし) ②0	①初期値より30%アップ ②就職時よりいずれかの状態が改善している者が50%以上	2023年1月
3. (薬物乱用・依存歴のある)罪を犯した人が、断薬期間を維持し、気軽に悩みや相談できる場所を確保して居場所を見出すようになる。	①回復支援に複数回参加している人の人数 ②薬物回復支援実施日以外に相談してきた人の数 ③薬物回復支援の協力者・協力団体の拡充	①1人(1~2月試行実施分) ②8人(1~2月試行期間に電話相談した人数) ③埼玉ダルク、堀口先生	①初期値より10人増 ②回復支援参加者の10割を目指したい ③4(団体もしくは個人)	2023年1月
4. 非行少年等が、自分の住む地域の多様な住民とのつながり、地域の中に居場所があると感じられる状態になる。	①活動に参加して「自分が役に立ててよかった」と感じた少年数 ②参加少年のその後のナラティブ	0(未調査)	①参加者数の8割 ②参加少年が地域で意欲的に生活している状態	2023年1月

--	--	--	--	--	--	--	--

記載日 令和 年 月 日  
入寮者氏名

入寮時調査及び更生計画書

更生保護施設入寮回数 (チエック <input checkbox"="" checked="" type="checkbox&gt;)&lt;/td&gt; &lt;td&gt;&lt;input type="/> 初めて	<input type="checkbox"/> 2回目	<input type="checkbox"/> 3回目	<input type="checkbox"/> 4回以上	
職業上何か資格は	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
就職の希望(職種)	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
至急やっておきたいこと				
現在の所持金				円
自立のための貯蓄目標				円
自立退去について	退去予定先	親族の元( ) 勤務先の寮( ) アパート( ) その他( )		
更生保護施設に在寮希望	保護観察期間	令和 年 月 日ごろ		
	その他(具体的)	退去予定 令和 年 月 日ごろ		
健康状態	既往症( ) 現症状( )			
相談したいことありますか?				
夢や目標はなんですか? 将来どうなりたいですか? (本人の言葉をそのまま記録) 「～しない」=× 「～する」=○				

以前から清心寮で使用していた様式に、この欄を追加した

物品支給	無・有 (タオル2枚、洗濯洗剤1箱、歯ブラシ1本、髭剃り3枚、雑巾1枚、その他支給)
問題点	
方針	

清心寮・休眠預金事業アンケート

【アンケートの目的】このアンケートは、清心寮を退寮したみなさまを対象に、現在の生活状況などをお聞きすることで、清心寮が行う支援について、よりよい方法を探ることを目的としています。

★まずは、あなたの気持ちについておかがいします。

問1-1. あなたが、清心寮の訪問支援を希望した理由は、何ですか？ 次のなかから、あなた自身の理由にあてはまるもの【すべてに】○をつけてください。

- 1) 話したい 2) スタッフに会いたい 3) こまりごとを相談したい 4) 不安だから 5) ほかに知り合いがないから 6) さみしいから 7) なんとなく(とくに理由はない) 8) 勧められたから 9) その他( )

問1-2. 今日(またはこれまで)清心寮のスタッフが訪ねてきて、どう思いましたか？

- 1) ほっとした 2) 話せてよかった 3) スタッフに会えてうれしかった 4) たのしかった 5) まんぞくした 6) こまりごとが解決した 7) 不安がへった 8) なやみが軽くなった 9) 明日もがんばろうと思う 10) ものたりなかった 11) いやな気分になった 12) 残念なきもち 12) その他( )

★次に、あなたの生活状況についておかがいします。

Table with 2 main columns: ①清心寮を退寮する直前, ②現在(いま)の状況. Rows include questions about feelings before leaving, current feelings, age, social life, confidence, and reliance on others.

問2-6. よかったら、あなたの「今のこまりごと」や「不安・悩み」について【自由】にお書きください。→裏面に続く

Blank box for handwritten notes.

問2-7. あなたが、これまで清心寮を通じて紹介してもらった人や相談先はありますか？

- 【すべてに】○をつけてください。 1) 就労支援事業者機構(就労先) 2) 行政(生活保護) 3) 行政(福祉) 4) 病院 5) 福祉事業所・作業所 6) シェルター 7) 依存症回復支援団体(ダルクなど) 8) 不動産業者 9) 法律相談(弁護士会・法テラスなど) 10) 特に紹介してもらっていない 11) その他( )

紹介してもらった人にお尋ねします。 紹介してもらったことをどう思っていますか □とても良かった □まあ良かった □どちらでもない □あまり良くなかった □まったく良くなかった

問2-8. あなたが、現在、つなげてもらいたい、紹介してもらいたい人や相談先はありますか？

- 【すべてに】○をつけてください。 1) 就労支援事業者機構(就労先) 2) 行政(生活保護) 3) 行政(福祉) 4) 病院 5) 福祉事業所・作業所 6) シェルター 7) 依存症回復支援団体(ダルクなど) 8) 不動産業者 9) 法律相談(弁護士会・法テラスなど) 10) とくに希望はない 11) その他( )

問3. あなたにとって頼れる人・相談先は誰ですか？【すべてに】○をつけてください。

- 1) 親戚 2) 配偶者(交際相手) 3) 友人 4) 知人 5) 仕事の関係者 6) 保護士 7) 就労支援事業者機構のスタッフ 8) 清心寮のスタッフ 9) 自治体相談窓口のスタッフ 10) 頼れる人は一人もいない 11) その他( )

★最後にあなた自身のことについておかがいします。

問3. 清心寮を退寮されたのはいつ頃でしたか？ 年 月頃

問4. あなたの年齢について、次のなかからあてはまるもの【1つ】に○をつけてください。 1) 20代 2) 30代 3) 40代 4) 50代 5) 60代 6) 70代 7) 80代以上

問5. 現在、お仕事はありますか？ ある ない

問6. 問5で仕事があると回答された方、現在のお仕事はどれくらいの期間、働いていますか？ 年 月くらい

問7. 現在、一緒に暮らす人はいらっしゃいますか？ いる いない

★★これでアンケートはおわりになります。ご協力、ありがとうございました★★

調査対象者：清心寮退所後も引き続き清心寮からの支援を受けた者24人を対象、うち14人から回答を得た（回収率58%）

1-1. 訪問支援を希望した理由は？（当てはまるもの全て）

話がしたい	1
スタッフに会いたい	2
困りごとを相談したい	5
不安だから	3
他に知り合いがないから	1
寂しいから	1
何となく（特に理由はない）	4
勧められたから	4
その他	1
義務だから	

1-2. 清心寮スタッフが訪ねてきて、どう思いましたか？（当てはまるもの全て）

N 36  
※全回答数

ホッとした	4	肯定的意見	32 (89%)
話せて良かった	5		
会えてうれしかった	5		
楽しかった	3		
満足した	2		
困りごとが解決した	1		
不安が減った	5		
悩みが軽くなった	4		
明日も頑張ろうと思った	1		
物足りなかった	1		
嫌な気分になった	1	否定的意見	3 (8%)
残念な気持ち	1		
その他	3		
まだ来ていない		その他に計上	
恩師、恩人のH先生が連絡、はるばる来てくれて感謝		肯定的意見に計上	
生活が苦しい時、何度も助けていただいた		肯定的意見に計上	

	回答時点	全く当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	少し当てはまる	とても当てはまる	合計人数 (無回答)
2-1. 悩みや不安がある	退所直前	0	2	3	4	3	12 (2)
	現在	2	1	1	2	7	13 (1)
2-2. 社会生活で困りごとがある	退所直前	0	1	3	6	2	12 (2)
	現在	1	2	3	2	5	13 (1)
2-3. 今後も犯罪をせず、生活を続ける自信がある	退所直前	0	0	4	2	6	12 (2)
	現在	0	0	2	1	9	12 (2)
2-4. 自分には頼れる人や相談先があると思う	退所直前	1	0	3	3	6	13 (1)
	現在	2	1	2	1	8	14 (0)

調査対象者：清心寮退所後も引き続き清心寮からの支援を受けた者24人を対象、うち14人から回答を得た（回収率58%）

**2-6. あなたの「今の困りごと」や「不安・悩み」について自由にお書きください。**

何かくだらない悩みが多い
現在は、特にありません
相変わらず生活が苦しい時や不安に思う時がある

**2-7(1). これまで清心寮を通じて紹介してもらった人や相談先はありますか？  
(当てはまるもの全て)**

就労支援事業者機構（就労先）	4
行政（生活保護）	4
行政（福祉）	0
病院	1
福祉事務所・作業所	2
シェルター	0
依存症回復支援団体（ダルクなど）	0
不動産業者	0
法律相談（弁護士会・法テラスなど）	0
特に紹介してもらっていない	4
その他	2
訪問看護ステーション	
障害者生活支援センター	

**2-7(2). 紹介してもらった人にお尋ねします。  
紹介してもらったことをどう思いますか？**

とても良かった	4
まあ良かった	1
どちらでもない	1
あまり良くなかった	0
まったく良くなかった	0

**2-8. 現在、つなげてもらいたい、紹介してもらいたい人や相談先はありますか？  
(当てはまるもの全て)**

就労支援事業者機構（就労先）	3
行政（生活保護）	2
行政（福祉）	2
病院	0
福祉事務所・作業所	0
シェルター	0
依存症回復支援団体（ダルクなど）	1
不動産業者	1
法律相談（弁護士会・法テラスなど）	2
特に希望はない	7
その他	0

**2-9. あなたにとって頼れる人、相談先は誰ですか？ (当てはまるもの全て)**

親戚	2
配偶者（交際相手）	1
友人	3
知人	3
仕事の関係者	2
保護司	4
就労支援事業者機構のスタッフ	1
清心寮スタッフ	7
自治体相談窓口のスタッフ	2
頼れる人は一人もいない	3
その他	1
母	

調査対象者：清心寮退所後も引き続き清心寮からの支援を受けた者24人を対象、うち14人から回答を得た（回収率58%）

**3. 清心寮を退寮したのはいつ頃でしたか？**

※アンケート実施時期は2022年11月～12月

2020年：3月、11月（3名）
2021年：1月
2022年：1月、6月、7月（2名）、8月、9月（2名）、10月、11月

**4. あなたの年齢**

20代	0
30代	1
40代	6
50代	3
60代	2
70代	0
80代以上	2

**5. 現在、お仕事はありますか？**

ある	6
ない	8

**6. お仕事があると回答された方、現在の仕事はどれくらいの期間、働いていますか？**

5ヶ月、6ヶ月、7ヶ月、1年3ヶ月、2年5ヶ月、3年
----------------------------

**7. 現在、一緒に暮らす人はいらっしゃいますか？**

いる	5
いない	9

### 清心寮・関係機関アンケート

**【アンケートの目的】**

・このアンケートは、清心寮退寮者(刑務所出所者等)の支援に関わってくださった関係機関・団体のみなさまを対象に、清心寮との連携状況等についてのご意見、ご感想をお聞きすることで、清心寮が行う支援について、よりよい方法を探ることを目的としています。  
 ・アンケートへの回答は自由です(ご協力いただける方のみご回答ください)。

★まずは、連携の相談を受けた際のご感想についておかがいします。

問 1-1. 清心寮から支援連携について相談があったとき、どのように感じられましたか、あてはまるもの【すべてに】○をつけてください。

- 1) よく知らない団体(清心寮)からだったので不安を感じた。
- 2) 刑務所出所者を支援することへの不安を感じた。
- 3) 相談してきた清心寮職員の印象が良かった。
- 4) 相談してきた清心寮職員の態度に不安を感じた。
- 5) とくに不安はなかった
- 6) その他( )

問 1-2. 清心寮から、「はじめて」支援連携のご相談をさせていただく際に、留意したら良いと思えることがありましたら、ぜひ、教えていただきたく、下に【自由に】お書きください。

問 2-1. 支援していただいているあいだのことをお尋ねします。

清心寮の退所者(刑務所出所者等)に対する支援について、ご不安等はありませんか。「支援前」と「現在」それぞれ、あてはまるもの【1つ】に○をつけてください。

支援前

- 1) とてもあった 2) 少しあった 3) どちらでもない 4) あまりなかった 5) まったくなかった

現在

- 1) とてもあった 2) 少しあった 3) どちらでもない 4) あまりなかった 5) まったくなかった

問 2-2. 2-1 で不安があったと回答した方、どのような不安がありましたか、【自由に】お書きください。

裏面に続く→

問 2-3. 貴団体のご支援中、清心寮職員のフォローアップは貴団体(担当者の方)としては、満足の行くものでしたか、あてはまるもの【1つ】に○をつけてください。

- 1) とても満足した 2) 少し満足した 3) どちらでもない 4) あまり満足していない
- 5) まったく満足していない

問 2-4. 清心寮職員の、依頼後の状況把握やフォローアップは、貴団体の不安軽減や支援に役に立ちましたか？あてはまるもの【1つ】に○をつけてください。

- 1) とても役に立った 2) 少し役に立った 3) どちらでもない 4) あまり役に立たなかった
- 5) まったく役に立たなかった

問 2-5 清心寮の退寮者を支援いただいたことについて、現在、どのようにお感じになっていますか、【自由に】お書きください。(例: 良い支援ができた、非常に負担が大きかった等)

問 3. 今後の、清心寮の退寮者(刑務所出所者等)の支援に対するお考えを教えてください、あてはまるもの【すべてに】○をつけてください。

- 1) 積極的に支援を行いたい
- 2) (福祉等の)制度に乗る人や事業に該当する人は、支援をしてもよい
- 3) 相談は構わないが、支援できるかどうかはわからない
- 4) できれば関わりは避けたい
- 5) その他( )

問 4. 清心寮退寮者の支援に関わっていただく場合に、清心寮に期待されることがありましたら、自由にお書きください。

★最後に貴団体のことについておかがいします。次ページに続く

問5. 清心寮の退寮者をはじめ、刑務所出所者の支援のご経験はどの程度おありですか？

支援人数	人程度
------	-----

問6. 貴団体の分野について、次のなかからあてはまるもの【1つ】に○をつけてください。

- |            |              |              |               |           |
|------------|--------------|--------------|---------------|-----------|
| 1) 行政      | 2) 福祉関係(高齢者) | 3) 福祉関係(障害者) | 4) 福祉関係(生活保護) |           |
| 5) 医療関係    | 6) 教育関係      | 7) 就労支援関係    | 8) 司法関係       | 9) 更生保護関係 |
| 10) その他( ) |              |              |               |           |

★★これでアンケートはおわりになります。ご協力、ありがとうございました★★

調査対象者：清心寮退所者の支援に際して、連携した機関8団体を対象、うち6団体から回答を得た（回収率75%）

1-1. 清心寮から相談があったとき、どう感じられましたか？（当てはまるものすべて）

よく知らない団体（清心寮）からだったので不安を感じた	0
刑務所出所者を支援することへの不安を感じた	1
相談してきた清心寮職員の印象が良かった	3
相談してきた清心寮職員の態度に不安を感じた	0
特に不安はなかった	2
その他	2
-----	
初めての機関でしたので状況をのみこむのに時間がかかりました	
もともと知っている方だったので不安はありませんでした	

1-2. 清心寮から、「初めて」相談をさせていただく際に、留意したら良いと思われることがありましたら、教えてください

個人情報の中に、生育歴や事件に至った経緯などがあり、とても助かりました
情報がほしい
福祉サービス開始には福祉事務所、障害課などと足並みをそろえていくことが多いので、初期の相談をしっかりともらえるとありがたいです
担当の方が良くて不安がなくなりました
入居希望者の情報をなるべく具体的にいただけると安心できます

1-3. 支援していただいているあいだのことをお尋ねします。

清心寮退所者に対する支援について、ご不安等ありましたか？

とてもあった/とてもある	支 援 前	現 在	1	0
少しあった/少しある			1	0
どちらでもない			1	2
あまりなかった/あまりない			1	2
まったくなかった/まったくない			2	2

2-2. 不安があったと回答した方、どのような不安がありましたか？

ご担当の方が密に情報くれて不安がなくなりました。大事なポイントですね
支援前は他の入居者に対して危害を加えてしまうのではないかと多少不安がありました

2-3. 貴団体のご支援中、清心寮のフォローアップは貴団体としては、満足のいくものでしたか？

とても満足した	2
少し満足した	4
どちらでもない	0
あまり満足していない	0
まったく満足していない	0

2-4. 清心寮職員の依頼後の状況把握やフォローアップは、貴団体の不安軽減や支援に役立ちましたか？

とても役に立った	3
少し役に立った	2
どちらでもない	1
あまり役に立たなかった	0
まったく役に立たなかった	0

2-5. 清心寮の退寮者を支援いただいたことについて、現在、どのようにお感じになっていますか？

ご本人の育ちの幼さを感じていますが、特に支援のやりづらさなど感じていません
再犯がなければ良いですね
ご本人に病識が薄かったり、社会性が育っていないなど、生きづらさを抱えた人が多いのだと思います
（担当者退職につき）今後はどなたもいないのは困ります。今後のフォローアップはどうなるかを決めてほしい
継続的、定期的に支援が実施できるとより良かったと思います
良い支援ができていると感じています

調査対象者：清心寮退所者の支援に際して、連携した機関8団体を対象、うち6団体から回答を得た（回収率75%）

3. 今後の清心寮の退寮者の支援に対するお考えを教えてください。

積極的に支援を行いたい	1
福祉等の制度に乗る人や事業に該当する人は、支援をしてもよい	4
相談は構わないが、支援できるかどうかは分からない	1
できれば関わりは避けたい	0
その他	1
ー市民として同じようにご支援したいと思います	

4. 清心寮退寮者の支援に関わっていただく場合に、清心寮に期待されることがありましたら、お書きください

退寮者さんと清心寮の支援者さんとの関係性が築けていたので、地域に出ることができたのだと思っていますので、その後の支援もやりやすかったです
すぐに生活保護申請だと流れがスムーズ
細やかなフォローアップをしていただき、皆さんとても助かっていると思います
次のステップをフォローしてもらえるシステムが重要。あとは知らない、なら困ると考えます
出所後の受け皿として機能することを期待します
やはり清心寮職員様と入居施設側が常に情報を共有し相談し合うのが大切だと思います

5. 清心寮の退寮者をはじめ、刑務所出所者の支援のご経験はどの程度おありですか？

50人
30人
5人(少年院を含めると10人位)
3人
1人
1人

6. 貴団体の分野について、次の中から当てはまるものについて、選択してください

行政	0
福祉関係(高齢者)	0
福祉関係(障害者)	4
福祉関係(生活保護)	0
医療関係	1
教育関係	0
就労支援関係	0
司法関係更生保護関係	0
その他	1
不動産	

### 清心寮・休眠預金事業アンケート(ネットワーク協議会)

**【アンケートの目的】**

・このアンケートは、ネットワーク協議会に参画いただいている関係機関・団体のみなさまを対象に、ご意見、ご感想をお聞きすることで、今後のネットワーク協議会の在り方や、清心寮の支援の在り方について、よりよい方法を探ることを目的としています。  
 ・アンケートへの回答は自由です(ご協力いただける方のみご回答ください)。

ネットワーク協議会に、参加された理由を教えてください。

(当てはまるものに、レ点をつけ、それぞれに順位をつけてください。)

- ( ) 清心寮から誘ってもらったから
- ( ) 他機関との連携が必要だと思っていたから
- ( ) 更生保護のことを知りたかったから
- ( ) 他機関の活動を知りたかったから
- ( ) その他

ネットワーク協議会に対してどのようなことを期待されて、参画されていますか。

(当てはまるものに、レ点をつけ、それぞれに順位をつけてください。)

- ( ) 他の機関・団体の活動を知りたい
- ( ) 他の機関・団体と連携して支援に取り組むため
- ( ) 清心寮の活動に共感したため
- ( ) 職務であるから
- ( ) 地域のつながりを広げたいと思ったから
- とくにはない
- その他( )

現在のネットワーク協議会の内容について、どのように感じておられますか、あてはまるもの【1つ】にレ点をつけてください。

- とても充実している
- まあ充実している
- どちらでもない
- 少し物足りない
- まったく物足りない

ネットワーク協議会を通じて提供・又は検討していくと良いとお考えのものはありますか。

(お考えのものがあれば、レ点をつけ、優先順位をつけてください)

- ( ) 地域にネットワークを具体的に作っていく方策の検討
- ( ) 研修会や見学会等学びの機会の提供
- ( ) 体的な支援事例の共有
- ( ) 具体的な支援や、協力の相談の機会
- ( ) 最新の更生保護施策の紹介

上記に限らず、その他、今後の協議テーマ、協議の進め方、なんでも結構ですが、アイデア、希望等をお願いします。(一つ以上記載をお願いいたします)

★最後に貴団体のことについておうかがいします。

貴団体の分野について、次のなかからあてはまるもの【1つ】にレ点をつけてください。

- 行政
- 福祉関係(高齢者)
- 福祉関係(障害者)
- 福祉関係(生活保護)
- 医療関係
- 教育関係
- 就労支援関係
- 司法関係
- 更生保護関係

★★これでアンケートはおわりになります。ご協力、ありがとうございました★★

調査対象者：さいたま社会復帰支援ネットワーク協議会参加機関団体23団体（清心寮除く）を対象、うち13団体から回答を得た（回収率57%）

### 1. ネットワーク協議会に、参加された理由を教えてください(複数回答可)

	1位	2位	3位	4位	5位
清心寮から誘ってもらったから	5	2	0	0	0
他機関との連携が必要だと思ったから	8	4	1	0	0
更生保護のことを知りたかったから	0	0	2	0	0
他機関の活動を知りたかったから	0	5	5	0	0
その他	0	0	0	0	0

### 2. 協議会に対して何を期待されて、参画されていますか(複数回答可)

	1位	2位	3位	4位	5位
他の機関・団体の活動を知りたい	4	4	3	0	0
他の機関・団体と連携して支援に取り組むため	5	6	2	0	0
清心寮の活動に共感したため	2	1	4	1	0
職務であるから	1	1	0	1	1
地域のつながりを広げたいと思ったから	1	0	1	1	0
特にはない	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

### 3. 現在の協議会について、どう感じていますか(当てはまるもの一つ)

とても充実している	1
まあ充実している	7
どちらでもない	5
少し物足りない	0
まったく物足りない	0

### 4. 協議会を通じて提供、又は検討していくと良いとお考えはあるか

	1位	2位	3位	4位	5位
地域にネットワークを具体的に作っていく方策の検討	6	0	2	0	2
研修会や見学会等学びの機会の提供	1	3	2	0	0
具体的な支援事例の共有	3	5	1	0	0
具体的な支援や、協力の相談の機会	1	2	2	2	0
最新の更生保護施策の紹介	2	2	1	3	0

回答機関：  
更生保護関係、医療機関、行政、司法関係、  
教育関係、福祉関係、就労支援関係



調査対象者：職場定着支援を受ける就労支援対象者34人のうち、調査時点で退職していない者13人にアンケートを送付し、7人が回答。（回収率54%）

## 1. 働いた期間はどのくらいですか。 (記述内容から集計)

3か月未満	0
3か月～6か月未満	0
6か月～1年未満	2
1年～2年未満	2
2年～3年未満	2
3年以上	1

## 2. 就職して良かったですか。 (ひとつ選択)

良かった	7
良くなかった	0
どちらとも言えない	0

## 3. 働き続けて良かったこと、得られたことは何ですか。 (複数選択可)

生活資金を貯めることができた	5
住居（社員寮やアパート）を確保できた	5
規則正しい生活ができるようになった	6
技術や能力が高まった	3
免許・資格を取得した（免許・資格名）	3
昇給した、給料が上がった	2
昇格した、職場内で身分（役職）が上がった	2
居場所ができた	3
仲間や知人ができた、孤独でなくなった	4
犯罪とは無縁な健全な生活をするようになった	6
生きがい、やりがいがあった	3
家族や周囲から信頼されるようになった、頼られるようになった	3
その他	0

## 4. 働き続けられた理由は何ですか。 (複数選択可)

更生しようと思ったから	5
仕事が自分に合っていたから	4
社長や同僚が支えてくれたから	5
相談者や支援者がいたから	3
給料が良かったから	2
生活費を貯めよう（借金を返済しよう）と思ったから	3
今の仕事で一人前になって自立したいから	2
他に職が無かったから	0
失業しなくなかった、無職でいるのはつらいから	2
生きていくため、食べていくため	5
分からない、何となく	0
その他	0

## 5. この仕事に満足していますか。 (ひとつ選択)

満足	7
不満	0
どちらとも言えない	0

## 6. これからも継続して働くつもりはありますか。 (ひとつ選択)

そのつもり	7
退職を検討している	0
どちらとも言えない	0

調査対象者：職場定着支援を受ける就労支援対象者34人のうち、調査時点で退職していない者13人にアンケートを送付し、7人が回答。（回収率54%）

## 7. 就労開始後の連絡、相談や声掛け（定着支援）あって良かったですか。

（ひとつ選択）

良かった	4
まあまあ良かった	2
どちらとも言えない	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
知らなかった	0

## 8. 就労開始後の連絡、相談や声掛け（定着支援）についてのご感想、ご意見・ご要望などありましたら教えてください。（記述）

・まず、仕事をすることで人生が変わると思いました。

## 9. あなたの年齢について教えてください。

（ひとつ選択）

10代	1
20代	0
30代	0
40代	3
50代	2
60代	0
70代以上	1

## 10. あなたの現在の住居について教えてください。

（ひとつ選択）

会社寮	4
会社借上アパート	1
自宅（アパート単身）	0
自宅（親族同居）	2

## 11. 現在一緒に暮らす人はいらっしゃいますか。

（ひとつ選択）

いる	2
いない	5

## 12. あなたにとって頼れる人相談できる人は誰ですか。

（複数選択可）

親戚	1
配偶者	2
友人	4
仕事の関係者	3
保護司	1
就労支援事業所職員	0
清心寮職員	0
自治体相談窓口職員	0
頼れる人はいない	1
その他（ ）	2

アンケートのお願い

今後の就労支援の参考にするため、アンケートにご協力をお願いいたします。  
該当箇所にご記入、順番付け又はは✓印を付けてください。

- 1 就労開始後に就労支援事業所が行った連絡、情報提供依頼（定着支援）の評価（1つに✓印）  
 とても良かった  良かった  どちらでもない  あまり良くなかった  
 良くなかった  知らなかった
- 2 就労支援事業所が行った連絡、情報提供依頼（定着支援）の内、良かった、役に立った項目はどれですか（全てに✓印）  
 刑務所出所者等を雇用することの不安や負担の軽減  
 雇用管理の方法についての助言援助  
 問題のある対象者の対応支援  
 対象者への就労指導（ジョブコーチ的役割）  
 雇用主と対象者のコミュニケーションや人間関係を良好にするための調整  
 役に立ったものはない  
 その他（記述 \_\_\_\_\_）
- 3 どのような支援を期待していますか（選択後、大きな理由の順に①②③・・・）  
 採用面接時の支援員同席など、刑務所出所者等を雇用することの不安や負担の軽減  
 同意を得られた対象者の経歴やスキルの情報を提供するなど、雇用管理の方法についての助言援助  
 就労後の連絡や面談など、問題のある対象者の対応などの支援  
 対象者への、より丁寧な就労指導（ジョブコーチ的役割）  
 雇用主と対象者のコミュニケーションや人間関係を良好にするための調整  
 その他（記述 \_\_\_\_\_）
- 4 就労後、支援の期間はどのくらいが適当ですか（1つに✓印）  
 3か月位  6か月位  1年位  2年位  いつまでも
- 5 従業員が長く働ける理由は何だと思えますか（記述）

（裏面へ）

- 5 協力雇用主期間を教えてください（記述）  
 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月～現在（期間 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）
- 6 従業員数と刑務所出所者等の雇用人数を教えてください（記述）  
 全従業員数（含パート雇用） \_\_\_\_\_ 人  
 内刑務所出所者等 \_\_\_\_\_ 人
- 7 記入者様の属性を教えてください（1つに✓印）  
 代表取締役（代表者）  管理職  担当者（総務人事など）  
 その他（記述 \_\_\_\_\_）

記入日 \_\_\_\_\_ 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

※ご協力ありがとうございます

特定非営利活動法人 埼玉県就労支援事業者機構  
埼玉県更生保護就労支援事業所

調査対象者：職場定着支援を受ける就労支援対象者を雇用する事業主26社のうち、調査時点で本人が退職していない11社にアンケートを送付し、10社が回答。（回収率90%）

## 1. 就労開始後に就労支援事業所が行った連絡、情報提供依頼（定着支援）の評価は？

（ひとつ選択）

とても良かった	5
良かった	4
どちらでもない	1
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
知らなかった	0

## 2. 就労支援事業所が行った連絡、情報提供依頼（定着支援）の内、役に立った項目はどれですか。

（複数選択も可）

刑務所出所者等を雇用することの不安や負担の軽減	7
雇用管理の方法についての助言援助	2
問題のある対象者の対応支援	4
対象者への就労指導（ジョブコーチ的役割）	1
雇用主と対象者のコミュニケーションや人間関係を良好にするための調整	4
役に立ったものはない	0
その他（記述）	0

## 3. どのような支援を期待していますか。

（優先順に複数選択）

採用面接時の支援員同席など、刑務所出所者等を雇用することの不安や負担の軽減	3
同意を得られた対象者の経歴やスキルの情報を提供するなど、雇用管理の方法についての助言援助	4
就労後の連絡や面談など、問題のある対象者の対応などの支援	5
対象者への、より丁寧な就労指導（ジョブコーチ的役割）	2
雇用主と対象者のコミュニケーションや人間関係を良好にするための調整	7
その他（記述）	0

調査対象者：職場定着支援を受ける就労支援対象者を雇用する事業主26社のうち、調査時点で本人が退職していない11社にアンケートを送付し、10社が回答。（回収率90%）

## 4. 就労後、支援の期間はどのくらいが適当ですか。

(ひとつ選択)

3か月位	2
6か月位	4
1年位	2
2年位	0
いつまでも	2

## 5. 従業員が長く働ける理由は何だと思いますか。（記述）

無理のない仕事量で安定した所得
住み心地の良い住居確保
誠意のある対応で、話しやすい環境をつくり声掛けを多くする。積極的に話しかける
活躍できる場を提供する。毎日の行動をできるだけ長く一緒に居て生活の変化にも気づくようにする
兄弟の様な関係作りや友人ができるきっかけづくりをする

## 6. 協力雇用主期間を教えてください。（記述）

(記述内容から集計)

1年未満	2
1～2年	0
2～5年	2
6年～9年	0
10年以上	3
未記入	3

## 7. 従業員数と刑務所出所者等の雇用人数を教えてください。（記述）

全従業員数（含パート雇用）

(記述内容から集計)

5人未満	0
6～10人	2
11～19人	1
20～49人	5
50～99人	1
100人以上	1

うち刑務所出所者等

なし	0
1～2人	2
3～5人	3
6人以上	5

## 8. 記入者様の属性を教えてください。

(ひとつ選択)

代表取締役（代表者）	6
管理職	1
担当者（総務人事など）	3
その他（記述）	0